

教育はいま

第15号



実践的指導力の向上を目指した校内研究の活性化
～児童生徒の学びが見える授業検討会の工夫改善を通して～

第1部

本研究で目指したこと

- 1 主題設定の理由
- 2 本研究における基本的な考え方
- 3 本年度の研究構想
- 4 「児童生徒の学びが見える」ために
- 5 授業検討会基本モデルの工夫改善
- 6 研究の成果と今後の取組
- 7 各学校等への期待

はじめに

仙台市教育センターでは、教職員の実践的指導力の向上を目指して、「センター研修・訪問研修・研究」という三つの基本事業を実施しております。本調査研究事業は、「研究」の一つとして仙台市教育委員会の重点施策を踏まえ、各学校の教育活動の工夫改善に役立つための実践研究として進めております。

さて、昨年改正された学校教育法では、法制上初めて、育成すべき学力として、基礎的な知識及び技能とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が規定されました。また、児童生徒の生活時間に占める授業時間の割合は、新学習指導要領における授業時数増にかかわらず、かなり大きなものであることも事実です。このような状況を重く受け止めながら、私たち教職員は、授業の質を高め、児童生徒一人一人に、確かな学力を身に付けさせることに努めなければなりません。この授業の質を高める一つの方法が、校内研究であり授業検討会なのです。

本センターでは、平成 16 年度から「授業の振り返り」に着手し、教職員相互の学び合いの場である授業検討会の工夫改善に取り組んできました。今年度は、「実践的指導力の向上を目指した校内研究の活性化～児童生徒の学びが見える授業検討会の工夫改善を通して～」という研究主題の下、児童生徒の学びの姿の交流を通して、教師の「見える力」を鍛え、実践的指導力・授業力の向上を目指してきました。具体的には、第一に、五つの授業検討会の在り方を実践を通して工夫改善し、基本モデルとして提示しました。第二に、それぞれの授業検討会のよさと課題を集約し、各学校が選択する際の視点を示すことに努めました。本研究は、今年度で終了しますが、来年度以降は授業検討会の正確な普及のために、様々な場を通して共通理解を図ったり、新たな「授業検討会研修会」を実施したりする計画です。

各学校においては、授業検討会の在り方を理解しながら、学校の実態やねらいに応じて選択し、実践して行ってほしいと思います。さらには、学校独自の工夫改善へと、本研究を引き継いでいくことを願っております。授業検討会は、手段であり目的ではありません。本研究紀要を実践的指導力の向上と校内研究の活性化のための方策として各学校で活用いただき、五つの授業検討会がよりよく浸透していくことを期待しております。

最後になりましたが、今年度の調査研究にご協力いただきました委嘱研究員の皆様をはじめ、研究協力校の皆様、発表会でご指導いただきました宮城教育大学教授相澤秀夫先生、そして本事業にご支援いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成 20 年 3 月

仙台市教育センター
所 長 吉田 利弘

平成19年度 研究主題

実践的指導力の向上を目指した校内研究の活性化
～児童生徒の学びが見える授業検討会の工夫改善を通して～

目次

		ページ
■はじめに	仙台市教育センター所長 吉田 利弘	
■第1部 本研究で目指したこと	佐々木成行	
1 主題設定の理由		1
2 本研究における基本的な考え方		3
3 本年度の研究構想		4
4 「児童生徒の学びが見える」ために		5
5 授業検討会基本モデルの工夫改善		7
6 研究の成果と今後の取組		17
7 各学校等への期待		20
■第2部 研究協力校の取組～基本モデルでの実践～		
I ワークショップ形式の授業検討会とペアの話し合いを活用した授業検討会	鈴木 裕太	21
II プロセスシートを活用した授業検討会とフリーカード法による授業検討会	板橋 宏明	29
■第3部 委嘱研究員の取組～各学校の工夫を通じた実践～		
I 参加意識を高め、学び合うペアの話し合いを活用した授業検討会	伊藤 敏子	37
II 見取りを大切にしたワークショップ形式の授業検討会	早坂 文宏	41
III 専門的な学びを求める全体での協議・助言を中心とした授業検討会	滝川真智子	45
IV 温かな雰囲気の中で学びを共有するフリーカード法による授業検討会	吉田 知彦	49
■おわりに	調査研究委員長 遠藤 裕子	53
■引用・参考文献, 調査研究委員会		54
■資料編		55

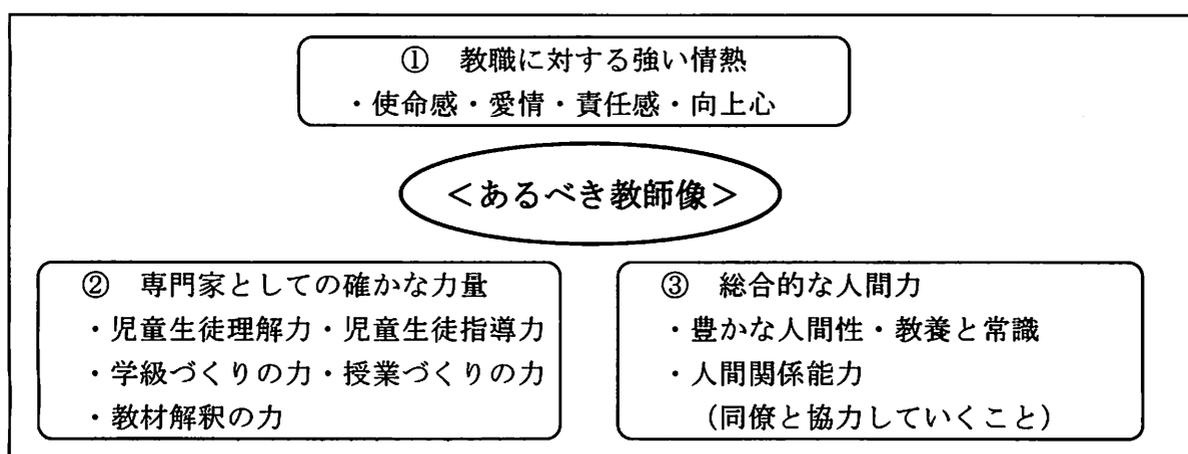
第1部

本研究で目指したこと

1 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

今日の学校教育を支える基盤は、教師個々の実践的指導力である。児童生徒そして保護者の教師に対する信頼も、この指導力に左右されると言っても過言ではない。平成17年10月の中教審答申「新しい時代の義務教育を創造する」において、「あるべき教師像」が以下のように明示されている。



また、平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について～教員をめぐる現状～」では、次の2点に留意する必要がある。

- ① 教科指導、生徒指導において「教師間の学び合いや支え合い、協働する力」が重要であること。
- ② 学びの共同体としての学校の機能（同僚性）が十分発揮されていないこと。

(2) 本市教育施策から

「平成19年度杜の都の学校教育」（仙台市教育委員会）においては、教員の資質向上のため、自己研鑽に励み切磋琢磨して、授業力や指導力を高めることが求められている。

本センターは三つの事業であるセンター研修・訪問研修・研究のキーコンセプトとして、教職員一人一人の「実践的指導力の向上」、とりわけ「授業力の向上」を掲げている。

(3) これまでの調査研究及び訪問研修における提案から

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
調査研究	指導計画改善のため「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方	授業評価を生かしたカリキュラム改善	実践的指導力の向上を目指した校内研究の活性化	(18年度に同じ)

副題	小・中学校における学級活動と総合的な学習の時間を通して	「授業リフレクション」による実践を通して	「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の工夫改善を通して	児童生徒の学びが見える五つの授業検討会の工夫改善を通して
視点	①子どもの学びの姿の見取り ②授業者と子どものかかわりの見取り	①授業リフレクションからカリキュラム改善 ②校内授業検討会における授業リフレクションの有効性	①校内研究の活性化の方策 ②同僚性をはぐくむ授業検討会	①児童生徒の学びの姿の具体 ②五つの授業検討会モデル作成と実践 ③これまでの調査研究と他の提案の整理

訪問研修での提案	校内研究推進協議会	授業検討会については、学習指導支援班からも、平成18年5月にワークショップ形式等三つの提案がなされた。これらは、一層の多様化と学習指導訪問や校内研究での活用を目指したものである。	平成18年度	平成19年度
			①活性化と継続性 ②三つの授業検討会の提案（ワークショップ、フリーカード、ロールプレイの活用）	①活性化と継続性 ②五つの授業検討会の工夫改善（ワークショップ、ペア、プロセスシート、フリーカード、全体協議助言）

平成19年度は、調査研究と訪問研修及び校内研究推進協議会で提案した授業検討会について、並行しながら実践研究を進めている。

(4) 本市学校の現状から

各学校等の校内研究の活性化を目指し、研究主任を対象とした「校内研究推進協議会」の調査によると、教職員個々の授業公開の気運が高まっていることがうかがわれる。

＜全員が授業を公開している学校数の推移＞

	小学校	中学校	幼稚園	特別支援学校	総計
18年度	70校	5校	3園	0校	78校
19年度	86校	25校	3園	1校	115校

このことから、授業提案後の授業検討会の工夫改善は、より一層の教職員の意識を高める上でも、必然的な課題である。

以上のことから、次のような研究の視点が引き出される。

実践的指導力、授業力、教師間の学び合い、同僚性の発揮
授業改善、授業検討会の工夫改善

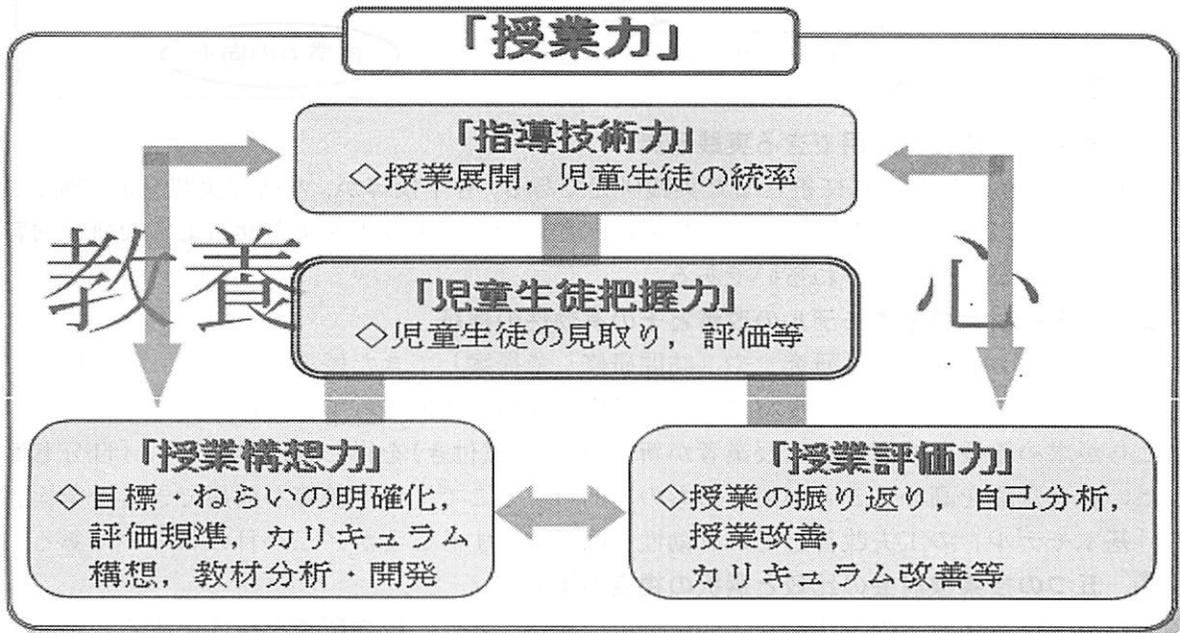
そこで、標記の研究主題を設定した。

2 本研究における基本的な考え方

(1) 研究テーマのとらえ

① 「実践的指導力」とは……

教員の職務から必然的に求められる資質能力として、児童生徒理解力、学級経営力、学習指導力などが挙げられるが、本研究では、確かな学力の向上を目指す各学校の校内研究との関連から、とりわけ教師一人一人の「授業力」に特化して本センターでは次のようにとらえている。



児童生徒の学びを見取る「児童生徒把握力」を中心としている点が特色である。

② 「校内研究の活性化」とは……

ア 教師の学び合いと同僚性の高まり

教師一人一人が、授業者の思いや願いを受け止め、自分のこととして互いに学び合い、学校の共同性が高まっていく校内研究

イ 日常的、継続的な授業改善

教師相互が、日常的に授業を開き、互いに明日の授業実践、次の授業公開につながる継続的実践となる校内研究

③ 「児童生徒の学びが見える」とは……

授業中に起きた事実としての児童生徒の学びの姿をとらえることから、それを判断し、授業改善へつなげることができる実践的指導力（ \geq 授業力）

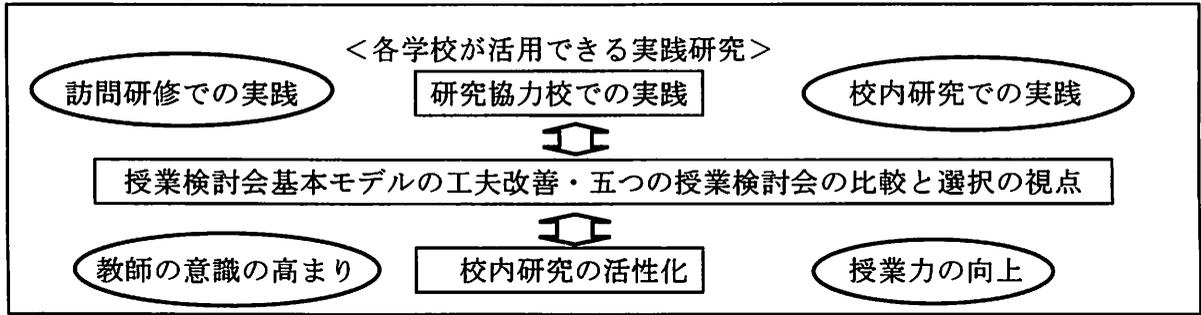
④ 「授業検討会の工夫改善」とは……

これまでの「調査研究」や「訪問研修」で提案してきた「児童生徒の学びの姿（授業の中で起きた事実）」の交流を通じた様々な授業検討会の在り方の整理と一層の工夫改善

本研究で取り組む授業検討会は、次の五つとする。

- ア ワークショップ形式の授業検討会
- イ ペアの話し合いを活用した授業検討会
- ウ プロセスシートを活用した授業検討会
- エ フリーカード法による授業検討会
- オ 全体での協議・助言を中心とした授業検討会

(2) 研究のねらい



① 各学校が使い、活用できる実践研究

本研究は、日々の教育実践に根ざした実践研究である。各学校等が、本研究実践を体験し、そして活用しながら校内研究の活性化のために、さらなる工夫改善を果たせるような研究内容を提供することが、一つ目のねらいである。

② 授業検討会の基本モデルの改善とその有効性の検証

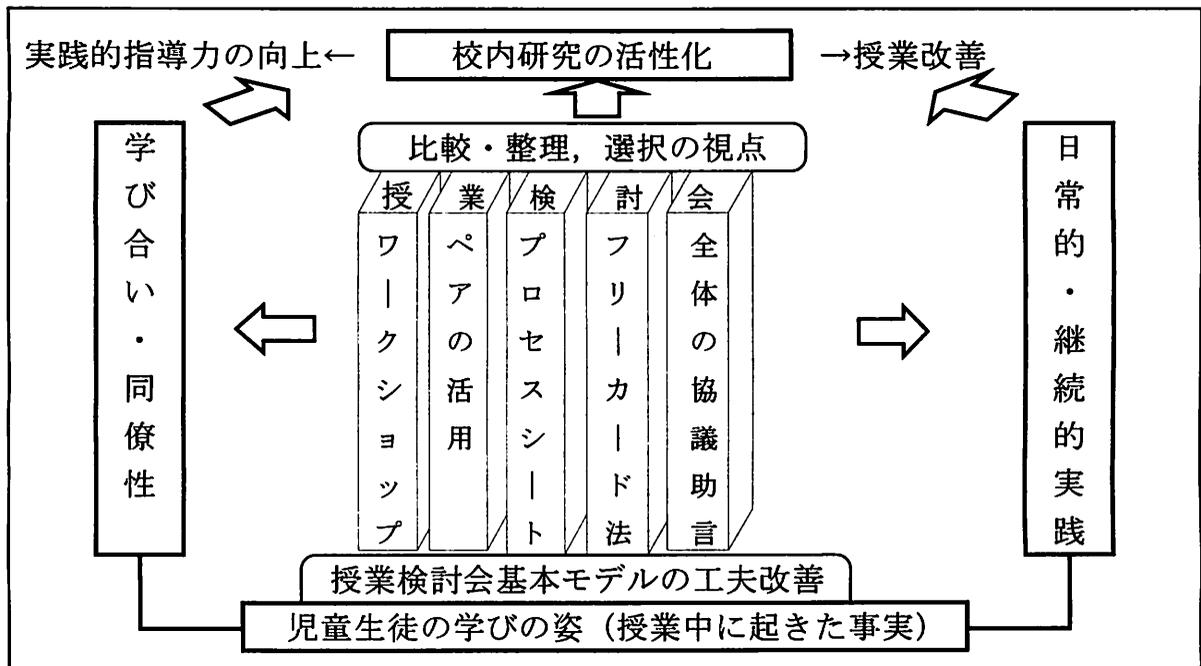
これまで、本センターが「研究」や「訪問研修」で提案してきた授業検討会が、各学校で実践され始めている。その結果、提案に対する不備や課題も指摘されてきている。

私たちが求める授業検討会は、授業者が新たな学び(気付き)を得られ、参観者も「自分も提案したい」と意識を高めることができるものである。そこで、各学校等が活用できる授業検討会の「基本モデル」の工夫改善とその有効性を明らかにすることが、二つ目のねらいである。

③ 五つの授業検討会の比較と選択の視点の集約

各学校が、授業検討会の方法を主体的に選択できることは、校内研究を活性化する一つの手だてと考えられる。その選択の指針となるような資料作成のために、特徴や課題を生かしながら五つの授業検討会を比較・類別化することが、三つ目のねらいである。

3 本年度の研究構想

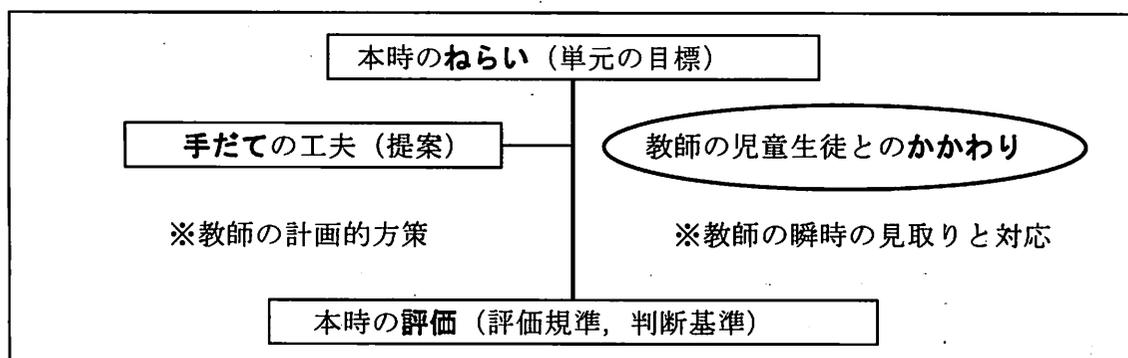


4 「児童生徒の学びが見える」ために

授業検討会を充実させるためには、参観者個々が、授業中に起きた出来事を詳細に記録に留めておくことが必要である。言い換えれば、授業を漠然と傍観しているような参観者は、授業検討会に参加する資格が問われることになる。

ここでは、何を視点として児童生徒の学びの姿を見取り、どのように判断し（気付き）、授業改善・授業力の向上につなげていくのかを示していきたい。

(1) 授業を見る二つの基本的な視点



基本的な一つ目の視点は、本時のねらい、ねらいを具現化するための指導の手だて（独自の提案）、本時の評価という教師の方策に関する児童生徒の学びの姿をとらえることである。二つ目の視点は、授業の中での瞬時の見取りと教師の児童生徒へのかかわり方、対応の仕方に関する学びの姿をとらえることである。

しかし、現実の授業では、この二つの視点を明確に区別することが困難なことも多々ある。要は、真摯に授業を見つめ、児童生徒の学びの姿を通して、教師一人一人の授業を見る目を高めていくことが必要である。

(2) 授業検討会に応じた記録の方法

① ワークショップ形式とフリーカード法による授業検討会の学びの姿の記録例

<付せん紙への記入>

☆課題：漢字の一部をイラストにして意味を生き生きと伝えなさい。(美術)

アイディアスケッチを8枚も描き、鉛筆を握ったまま、じっとしている。
Tさん

☆課題：胃腸薬を一袋の半分だけ入れなさい。(6年理科)

5班Y君
片栗粉を溶かした水溶液に、胃腸薬を「これくらいかな」と言って入れた。 13:45 鈴木

② ペアの話し合いを活用した授業検討会の学びの姿の記録例

<記録シートへの記入>

教師の指示・発問	児童生徒の学びの姿	参観者の判断・提案
(記入例) <中心発問>「青葉中を歌の響く学校に変えるには、どうすればいい?」と問いかけ。	(記入例) A君が、「みんなで口を大きく開けて練習すればいい。」と答えた。	(記入例) 歌い方を聞いたのではない?何をどうするか伝わる発問を!

③ プロセスシートを活用した授業検討会の学びの姿の記録例

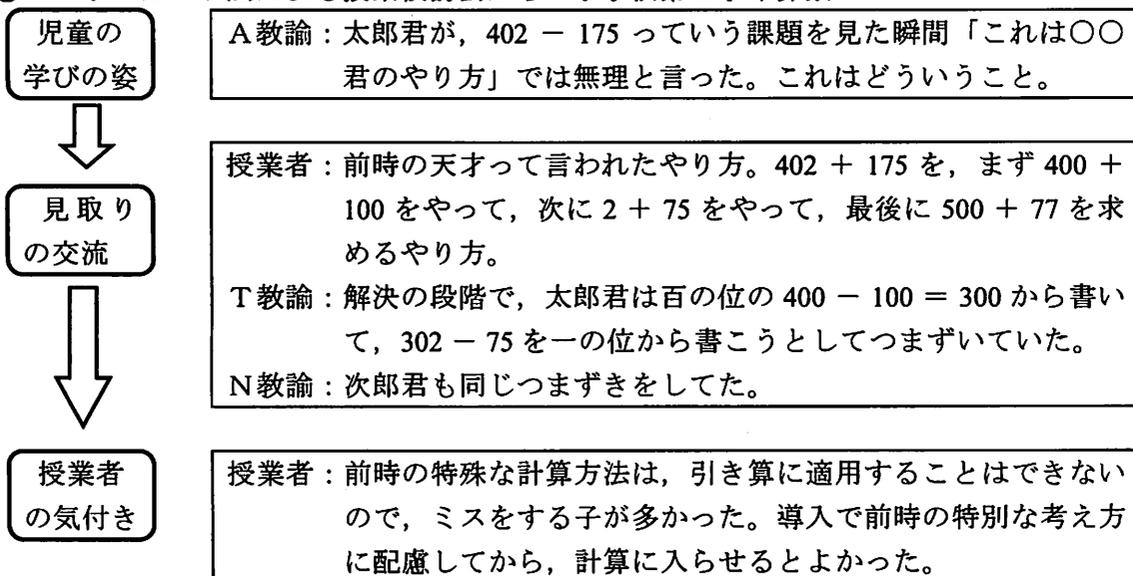
<プロセスシートへの記入>

当初のプラン	事実 (先生)	事実 (児童生徒)	気になったこと
完成した詩を発表する。 (事前の印刷)	□発表してもらいます。A子さんお願いします。	■A子：真っ赤。「題名も言うんですか。」 ■B子：にこにこしている。 ■A子：B子の顔を見てにこにこしながら発表。	○自分の発表の順番を期待？ ○聞き合う関係。 ○相手意識は学級全体では。 ※重点化して記入してよい。

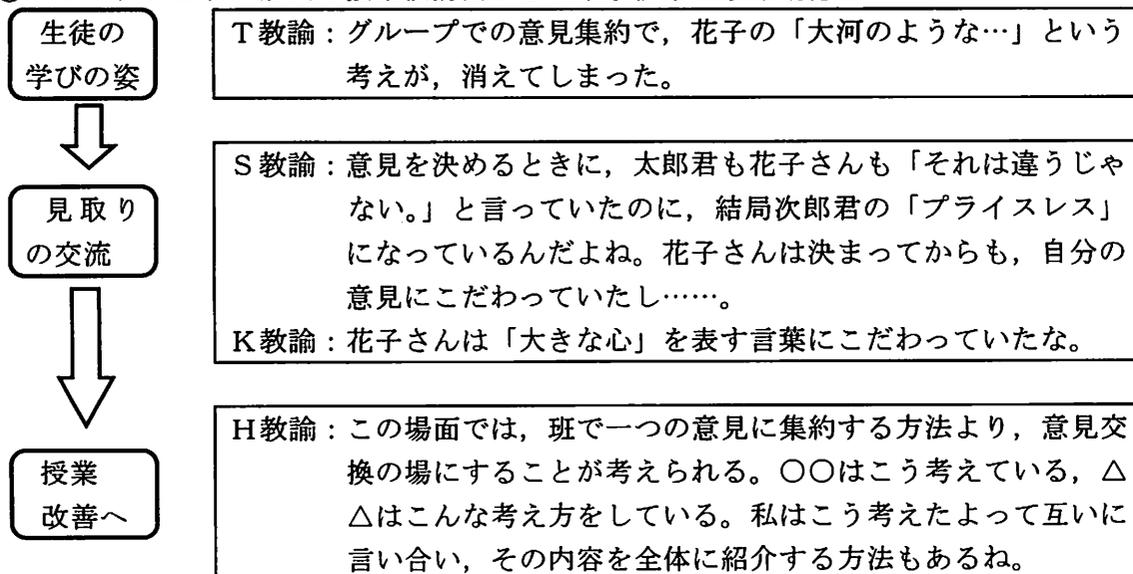
以上のように、児童生徒の学びの姿をとらえ、これを基に意見の交流を図ることが、授業検討会の意義であり、教師個々の「見える」力を高めることに他ならない。

(3) 学びの見取りの交流から授業改善の気づきや提案へ

① フリーカード法による授業検討会から～小学校第3学年算数～



② ワークショップ形式の授業検討会から～中学校第3学年道徳～



5 授業検討会基本モデルの工夫改善

(1) 共通プログラム

本研究の基本的な考え方を踏まえ、校内研究の活性化と継続化を目指す五つの授業検討会の共通項目及び留意点は、次のとおりである。

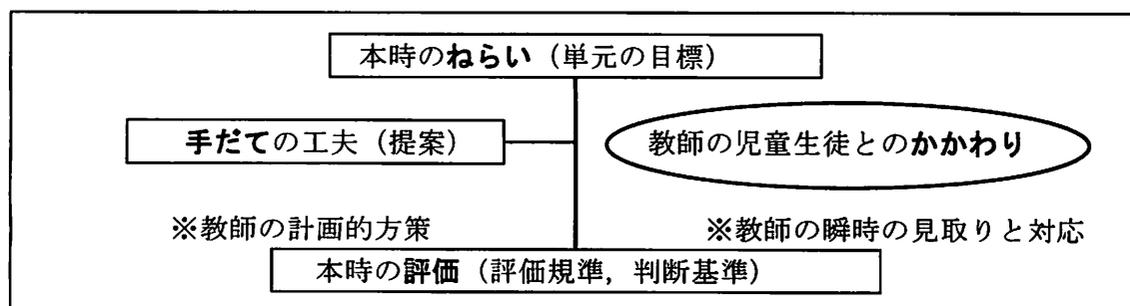
	項 目	留 意 点
前	<授業参観>	☆参観者：児童生徒の 学びの姿 を記録
導 入	◇オリエンテーション ◇授業者からの説明	◇司会者：協議の視点（ねらい・手だて）、検討会の在り方、時間配分等を確認する。 ◇ 授業者 ：児童生徒への思いや願い、本時のねらい（どんな力を身に付けさせたいのか）、手だての工夫（提案）等を語る。～お礼・反省・言い訳は不要～
展 開	□協議や作業 （全体・グループ・ペア等）	□司会者：参観者には協議の視点からずれず、授業を自分自身のこととして発言するように促す。参観者が積極的に発言するようにしかける。 □参観者：児童生徒の学びの姿の記録（授業の中で起きた事実）を通して、意見交換を行う。
ま と め	○指導助言 ○授業者等のまとめ	○助言者：授業者の意図を理解し、授業改善が見える助言（他の場面でも必要に応じて）を行う。 ○ 授業者等 ：今後の授業づくりへの思い、次の提案者への期待等を語る。

授業検討会に参加するためには、「児童生徒の学びの姿」を記録しておくことが必要である。参観者全員が、知らず知らずの内に授業検討会に引き込まれたり、最後に授業者がまとめることにより校内研究の継続化を図ったりという「しかけ」を授業検討会モデルとして提案する。

(2) 協議の視点

授業は、単元の目標や本時のねらいに即して組み立てられる。この目標やねらいを実現するために、児童生徒の実態を踏まえ、指導の手だての工夫（提案）がなされる。

したがって、授業検討会では、次の図のように、本時のねらいが達成されたかどうかを、児童生徒の学びの姿から話し合っていくことが最も大切である。また、指導の手だてや児童生徒とのかかわり方も協議の視点となる。これは、授業を見る視点とも同様である。



【図】授業検討会の協議の視点

(3) 授業検討会基本モデル

① ワークショップ形式の授業検討会

ア 特徴

少人数による主体的な作業や協議を通して、授業者と参観者が一体となり、授業改善を具体化していく検討会

イ 事前準備

- カード型付せん紙を準備し、授業でとらえた児童生徒の学びの姿を記入しておく。(記録用紙から転記してもよい) 授業のねらい、手だて、教師の児童生徒とのかかわりに関する児童生徒の学びの姿を中心に記録する。1枚の付せん紙に、学びの姿を一つ具体的に記入する。その際、プラス面とマイナス面が偏らないように留意する。
- 記入内容は、児童生徒の発言、発表、表情、つぶやき、記述、作業等の姿であり、参観者の意見や推測は記入しない。～授業中に起きた事実のみの記入～

<カード記入例> ※簡潔にサインペンで書くこと

太郎が「なにをしていいかわからない」と、つぶやく。

順番を表す言葉「まず」に印を付けていた。(花子)

中心発問に未記入で班活動に入った。(次郎)

○台紙はそのまの模造紙、または本時指導過程を模造紙大に拡大したものを使用。

○参加者を6人程度のグループに分け、司会を決めておく。(複数グループの場合)

ウ 検討会の過程 <約90分の時間設定>

	主な項目と時間	形態	内容・留意点
導 入	1 オリエンテーション<3分>	全体	1 司会者が協議の視点(ねらい・手だて・児童生徒とのかかわり)グループ協議の在り方、時間配分を確認する。
	2 授業者からの説明 <5分>	全体	2 授業者が、児童生徒への思いや願い、本時のねらい、手だての工夫(提案)等を語る。
展 開	3 自己紹介 <2分>	グループ	3 雰囲気を和らげるために、自己紹介を行う。例えば、好きな食べ物・血液型・星座等から一つ名前に加える。
	4 作業 <15~20分> ◇KJ法を活用し、授業のよさや課題を具体的に表出させる。 【Q1】「KJ法」って何? カードを集めれば、いいの?	グループ	4 KJ法を活用した作業 ① カード貼付 記入済のカード型付せん紙を、拡大した「本時の指導過程」に、一言述べながら、持ち札すべてを貼付する。 (一人5枚程度、一言は10秒以内) 太郎君がグループでも全体でも「○○○○」と答えていた。(6秒) ② 島分けと表札 親しいカードを集め、島分けをし、表札(タイトル)を付ける。孤立したカードも大切にする。



<p>【Q2】：授業者と助言者の動きは？</p> <p>5 協議 <30～35分> ◇授業の成果と課題について ◇成果と改善策の短冊化</p>	<p>グループ</p>	<p>③ 協議内容の焦点化 グループ司会は、表札(タイトル)と本時のねらいや手だてを関連付け、協議内容を、二つ程度に焦点化する。</p> <p>5 成果と授業改善策を短冊に記入する。(グループ数を踏まえ、記入する短冊数を決める。)</p>
<p>ま と め</p> <p>6 全体協議 <15分> ◇各グループから成果と改善策の発表(カードの活用) ◇授業者の補足説明 ◇具体的な改善策についての意見交換</p> <p>7 指導助言 <10分></p> <p>8 授業者等によるまとめ <5分></p>	<p>全体 全体 全体</p>	 <p>7 授業者の思いを踏まえ、授業改善が見える助言とする。</p> <p>8 今後の授業づくりに対する思いや次の授業者に対する期待等を語る。</p>

エ その他

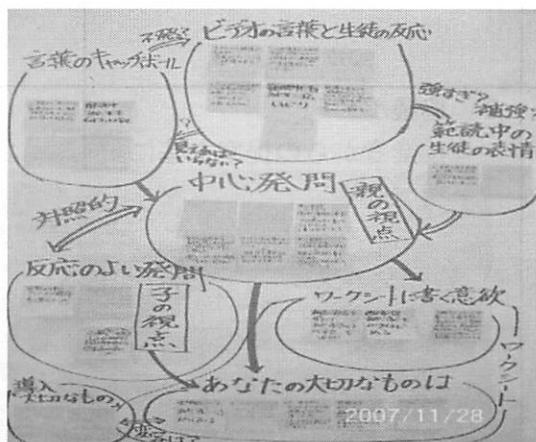
「児童生徒の学びの姿」の対象児童生徒は、KJ法の活用という視点から、原則として限定しない。ただし、校内研究のねらいや意図によっては、その限りではない。

<Q&A>

【Q1】：「KJ法」って何？

{A1}：そのポイントを解説すると……

- ① カード作り：1枚に1事項
～具体的にありのままに記入～
～仮定や想像は排除～
～多種多様に豊かに出すこと～
- ② カードのグループ編成(島分け)
ア すべてのカードを広げ、一つ一つ目でなめまわす。
イ 親しいと感じるカードを集める。
～理屈より感じる能力を～
○小分けから、大分けへ進むこと。(2枚ペアからまとめる)
○自分または特定の概念に当てはめ分類しないこと。(集めた後に概念を見つける)
○グループにならないカードは1枚のままにしておくこと。(離れ猿・一匹狼)
○集まりに違和感が生じたら、再びグループ編成をすること。
- ③ 表札(タイトル)作り：「離れ猿」は一つのグループとして可。
- ④ 空間配置：グループ同士の関連を考え配置したり、図解化したりする。



参考文献：川喜田二郎著 『発想法～創造性開発のために～』中公新書

【Q2】：グループ作業・協議における授業者及び助言者の対応は……

{A2}：2グループ以上の場合、巡回しながら、グループの求め(グループ司会の挙手等)に応じる。



- ③ 成果と改善策の整理
- ◇司会者による成果の確認
- ◇ペアによる改善策の検討
- ◇個別の改善策発表と全体での意見交換

<15分>

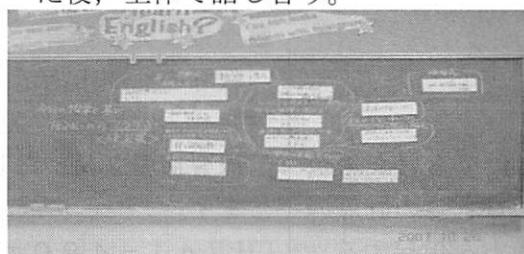
全体
ペア
全体

内容を紹介する。司会者は、はじめに名前が呼ばれた方が発表するといった約束を決めておく。例えば、「太郎君と花子さんのペア、お願いします。」の場合、太郎君が発表というように。

司会者は、必要に応じて授業者の発言や説明を求める。

③ ②の発表を基に、成果と課題を確認し、改善策を検討する。

可能ならば、改善策のキーワードを個別に**短冊**に記入し、黒板等に貼付した後、全体で話し合う。



4 協議Ⅱ（必要に応じ設定）

【Q】「どんな話題を取り上げるの？」

- ① ペアでの意見交換
- ② ペアからの発表と全体での意見交換

<5分>

<15分>

ペア
全体

4 司会者がねらいや手だて（提案）以外の価値のある話題を示し協議する。

① 再びあいさつをし、二つめの話題について、前とは違う順番で意見を述べ合う。

② ペアの片方が、二人分の話し合いの内容を紹介する。（いくつか続ける。）これを基に、さらに全体で協議を深める。授業者にも意見を求める。

- ま 5 指導助言 <10分>
- と 6 授業者と研究主任等（共同
- め 研究の代表）によるまとめ <5分>

全体
全体

- 5 授業改善の思いを踏まえた助言。
- 6 授業者と研究主任等が、ねらいの達成状況や指導の手だての成果と課題をまとめ、次へつなげる。

エ その他

司会者と授業者は、ペアでどんな話し合いがなされているのかを、座席を巡回しながらとらえることが望ましい。なぜなら、司会者は意図的なペアの指名に生かすことができ、授業者は、さらに説明しなければならないところが見えてくるからである。

<Q&A>

【Q】：協議Ⅱではどんな話題を取り上げればよいのか？

{A}：授業参観の中で、ねらいや手だての工夫にかかわらずとも、提案授業の本質に関する話題である。司会者だけでは決めかねるときは、助言者等に相談する。例えば、道徳の授業での「発問とは」、国語の授業での「音読の効果とは」といった内容。

③ プロセスシートを活用した授業検討会

※藤沢市教育文化センターの提案を基に構成

ア 特徴

授業者は、授業のねらいや願いと、児童生徒とのかかわりにおいて起きた事実とのずれを確かめたり、自分自身の言葉で内面を語ったりしながら、授業改善の気づきを参観者とともにも得ることができる検討会

イ 授業参観の視点

参観者は、授業中に起きた事実と気になったことをプロセスシートに記入しながら、授業参観をする。

当初のプラン	事実(先生)	事実(児童生徒)	気になったこと
授業者があらかじめ記入しておく。	時系列に沿って、授業の中で自分に見えていたことを記入する。 ■児童生徒の発言・つぶやき・表情・行動等 □教師の発問・指示・行動等		疑問に思ったこと、学びの背景にある意図、感想などを記入する。
前時の3けたの数のひき算の計算の仕方を想起する。	(記入例) □練習問題2問。出します。 □「741-490=」 □書いてみましょう。 □繰り下がりどうだった。	■全員：えー ■A子：先生、何問なの。 ■5,6名：あった。 ■B子：1回あった。	(記入例) ○なぜ「えー」なのか。 ○板書しないのは、教師の言葉に集中させるためか。 ※重点化して記入してよい。

ウ 検討会の過程 <約90分の時間設定>

授業者の内面を明らかにするため、時系列で授業中の事実を丁寧に再構築していき、学びの姿を語り合う。

	授業者	司会者(プロンプター)	参観者
導 入	1 授業を終えての印象を述べる。 <5分>	1 授業者に寄り添い 、授業者の言葉に耳を傾け、知りたい・分かりたいことについて質問していく。	1 授業者の「願い」を共有する。 【Q】授業者の願いを共有するために、どんなことに気を付ければよいのか？
	2 本時のねらいに即した提案や工夫、自分の願いや思い等を述べる。 <5分>	2 疑問に思ったことを質問し、振り返りを支援する。	2 授業者の言葉を尊重し、 授業者の願い や思いをさらに理解する。
展	3 授業の中で自分に見えていたこと・考えていたこと・感じたこと・起きていたことなどを振り返って、 自分の言葉 で語る。	3 参観者が見取ったことを、解釈や意味付けを加えずに授業者に返して語ってもらう。	3 授業で感じた疑問・気になったこと・知りたいことを、児童生徒の学びの事実を基に、素朴に出し合う。

<p>開</p>	<p>① 自分の授業の意味付け ② 授業の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実 ・ 見取りと判断 ・ 把握できなかった事実 ・ 再現された事実と自分の思いのずれ <p>4 自ら実感を伴った授業改善の手がかりに気付く。 <70分></p>	 <p>4 授業者の気付かなかった視点にも焦点を当てる。</p>	<p>4 語りの促進者として授業中に起きた事実を出し合い、授業の再構築を支援する。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 指導助言（必要に応じて） 6 振り返りを行う前後での授業の印象の違い、次時の授業改善や今後の授業について語る。 <10分></p>	<p>5 授業者の思いを踏まえ、授業改善を示す助言。 6 授業者・参観者の互いのズレを手がかりに授業を振り返ることで、参観者は授業から学ぶ。</p>	

エ その他

○司会者は、指導案作成から授業者を支援することが望ましい。

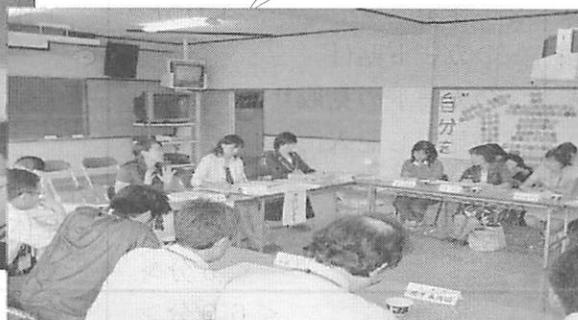
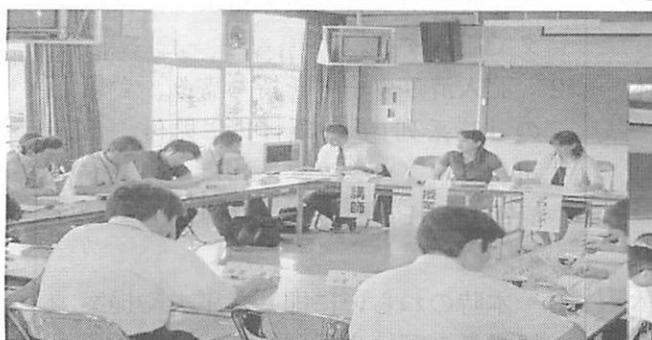
○授業者の気づきを促す**参観者の働きかけ**（発言）の例

「〇〇のような子供たちの反応がありましたが、先生はどのように受け止めていましたか。」

「机間指導中、先生はどのようなことを見取っていたのですか。」

先生自身が気づき、修正したいと思ったことは何ですか。」

「〇〇君は、指示を聞いた後すぐに、ワークシートに記入し始めた。」



<Q&A>

【Q】：授業者の願いを共有するために、どんなことに気を付ければよいのか？

{A}：① 授業者のねらいや願い、授業づくりへの思いを、参観者は共感的に受け止める姿勢を持つ。

② 「こうあるべきだ」などの一般論や「あの時こうしていればよかった」といった確かめようのない発言はしない。基本的には児童生徒の学びの姿を通して語り合う。

④ フリーカード法による授業検討会

※大阪大学 水越研究室が開発したものを基に構成

ア 特徴

参観者の多様な授業の見取りや質問事項を記入したカードを時系列・項目ごとに整理することにより、参観者の視点を明らかにしたり、焦点化した話し合いを行ったりして、授業者は授業改善の気づきを参観者とともに得ることができる検討会

イ 事前準備

○カードの記入(油性ペン使用)

授業を参観し、授業中に起きた事実や気になったことを、1枚1項目でカードに記入する。その際、記入時刻と記入者名をカードの端に記入する。

<記入例>

花子「わかった。1におもり4個、4におもり1個だとつりあう。」と発言。 13:50 鈴木

教師
「それは、明日やるところ」と声かけをする。 13:50 佐藤

(授業中見取った事実をメモしておき、検討会導入場面でカードに記入)

○台紙：次のように、模造紙の横軸に5分あるいは10分間隔で時間の区切りを設け、縦軸に、「授業の内容」「児童生徒の学習活動」「教師の活動」「教材・学習環境」などの項目を設ける。※「授業の内容」とは、授業のねらい・構成・展開等を示す。黒板にじかに枠を記入してもよい。

	5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分
授業の内容									
児童生徒の学習活動									
教師の活動									
教材・学習環境									

ウ 検討会の過程 <約90分の時間設定>

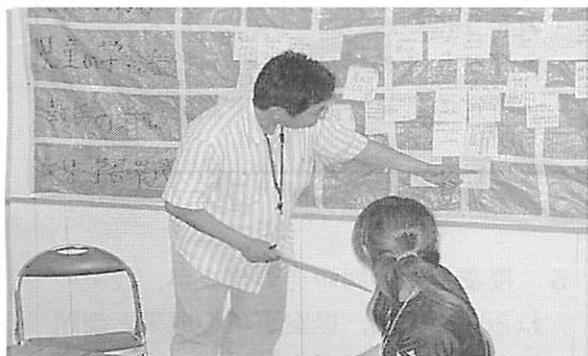
	主な項目	形態	内容・留意点
導 入	1 カード記入 <5分>	個別	1 参観者が一目で読めるよう、マジックで記入する。
	2 作業 <10分> ◇カード貼付 ◇カードの見取り ◇見出し記入	全体	2 記入済みカードを持ち寄り、台紙上の「時系列」「各項目」に貼付する。司会者(プロンプター)は、カードを見取り、まとめりごとに見出しを付ける。
	3 授業者からの説明 <5分>	全体	3 本時のねらいに即した工夫や提案、授業者の願いや思い等を述べる。
展	4 協議 <60分> 司会者から授業者へ「課題提示後の～という児童のつぶやきは予想どおりでしたか。」	全体	4 協議をする ① 時系列で、司会者は、カードに書かれている内容について参観者に確かめたり、授業者に質問したりしながら進めていく。



<p>開</p>	<p>(参観者の「児童は意欲的でした。」を受けて) 授業者「本時のねらいは、実験用てこを実用てこに置き換えて考えること。でも、実際はできているんですね。」</p>		<p>② 授業者は、児童生徒とのかかわりから起きていた事実に基づいて、どう考えてどう動いたかを、自分の言葉で語り授業を明らかにしていく。 (意味付け、授業の再構築)</p> <p>※③として、フリートーキングの場面を設定することもよい。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 指導助言（必要に応じて） 6 授業者によるまとめ <10分></p>	<p>全体 全体</p>	<p>5（授業者の思いを踏まえた助言） 6 参観者の多様な視点による質問や授業における焦点化した部分の討議からの気づきを基に語る。 ○振り返りを行う前後での授業の印象の違い ○次時の授業改善や今後の授業について</p>

エ その他

○プロセスシートを活用した授業検討会と同様に、参観者は発言や働きかけに、留意する必要がある。（授業の善しあし、一般論、仮定は述べない。）



○司会者は、指導案作成段階から授業者を支援することが望ましい。

<Q&A>

【Q】：「ワークショップ形式」の授業検討会と「フリーカード法」による授業検討会は、共にカードを使用するが、大きな違いはどのような点か？

{A}：まず、ねらいの違い。フリーカード法は授業者の**気づき**を促すことが大きなねらいであり、ワークショップ形式は、授業者と参観者が互いに**授業改善の具体的方策**を提案していくことがねらいである。

次に、形態の違い。フリーカード法は、授業者を中心に据えての全体会の形態。ワークショップ形式は、グループ活動と全体会を併用した形態。

最後に、カードの扱い方の違い。フリーカード法は、あらかじめ決められた項目及び時系列で処理していくが、ワークショップは、KJ法を活用しているため、項目（タイトル・表札）はカード集約後に参観者によって示され、時系列に集約する必要もない。

⑤ 全体での協議・助言を中心とした授業検討会

ア 特徴

授業者と参観者は、児童生徒の学びの姿を通して語り合うが、あまり形式にとらわれず、自由に意見交換ができるとともに、十分な指導助言の時間を確保した検討会



イ 事前準備

児童生徒の学びの姿（児童生徒の発言・つぶやき・表情・行動）と教師の発問・指示等の授業の中で起きた事実を、何らかの形で記録しておく。

ウ 検討会の過程 <約90分の時間設定>

	主な項目	形態	内容・留意点
導入	1 検討会の進め方の確認 <5分>	全体	1 校内研究の目標、授業のねらい、指導の手だての工夫（提案）、児童生徒とのかかわりを、協議の視点とすることを確認する。
	2 授業者（研究主任等）からの説明 <5分>	全体	2 授業のねらいや手だての工夫等にかかわらない内容は省略する。授業者の思いや願いを具体的に話す。
展開	3 協議 ① 授業のねらいについて ② 授業者の手だての工夫等について……など <50分>	全体	3 司会者は、多くの参観者に発言の機会を与える。 ・児童生徒の学びの姿から協議する。 ・特定の意見や感想発表に終始しない
まとめ	4 指導助言 <20~25分>	全体	4 十分な時間を確保する。
	5 授業者等によるまとめ <5分>	全体	5 授業者や共同研究の代表が、授業のねらいの達成、提案事項の成果と課題等をまとめ、発表する。

(4) 全体の留意事項

① 授業者等によるまとめ

話し合いを通して感じたこと、今後の授業作りに対する思い、次の授業提案者に対する期待など。例えば、「今後も継続して、～に取り組んでいきたい。話し合いで示された～～を活用して授業改善を図りたい。次の校内研究の授業では、～～を見せてほしい。」等

② 授業会場の配慮

教室の両サイドの空間を十分に確保し、「学びの姿」をとらえやすくする。

※教室の後ろに、イスなどは並べない。

③ 児童生徒の名前等で語るために

名前が分かる座席表を指導案に添付しておくといよい。授業終了後、回収する。

6 研究の成果と今後の取組

具体的な研究実践の成果と課題は、研究協力校等の報告「第2部」「第3部」を参照されたい。ここでは、研究全体にかかわる基本的な成果と今後の取組の視点について触れる。

(1) 研究の成果

① 授業検討会基本モデルの工夫改善

研究協力校等の数多くの実践を通して、各学校（園）が、容易に「使える」五つの授業検討会の基本モデルを工夫し改善しながら提示することができたと考える。ぜひ、これらのモデルに示された方法を基に、各学校等が主体的に授業検討会を選択し、実践を繰り返してほしい。

② 研究協力校の教師の活性化

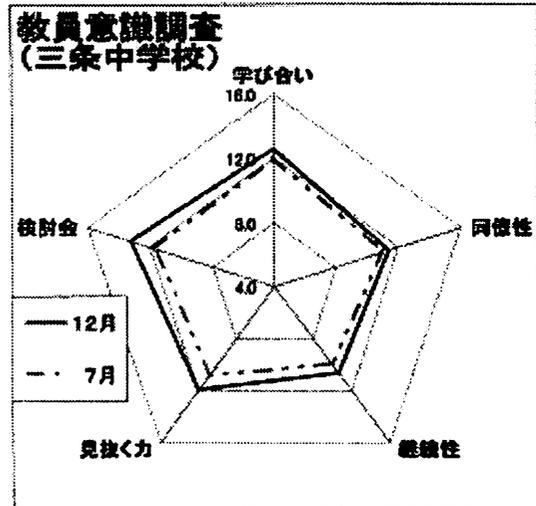
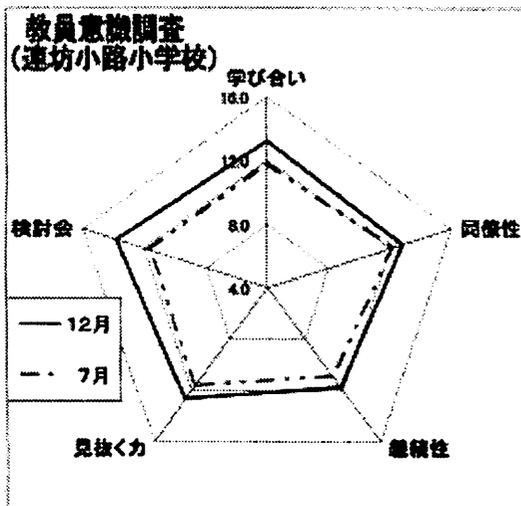
研究協力校（連坊小路小学校・三条中学校）それぞれの教員意識の変容を見るため、次のような調査を行った。

ア 調査項目：学び合い（授業者の思いを踏まえての授業参観や検討会の発言等）、同僚性（相談や認め合い等）、継続性（次の授業公開への発展等）、見抜く力（学びの姿の理解判断等）、検討会（授業検討会の活性化等）の五点である。

イ 設問集計：1項目につき、4問設定

1問に4段階選択肢（最高4点，最低1点）

1項目の最高16点，最低4点



両校ともに、児童生徒の学びの姿を見取り判断する見抜く力と校内研究の活性化につながる授業検討会という項目に関して意識の変容が見られた。他の項目についても意識の高まりを見て取れるが、学校間で項目等に違いが見られる。

また、日常的な校内研究の中で、授業検討会を工夫してきた四つの学校でも、授業検討会に対する理解や共感が生まれている。

③ 五つの授業検討会の比較・整理～授業検討会选择の視点～

ア 授業検討会の特徴

名称	特徴
<ワークショップ形式の授業検討会>	少人数による主体的な作業や協議を通して、授業者と参観者が一体となり、授業改善を具体化していく検討会
<ペアの話し合いを活用>	協議の視点を明確に持ち、参加者一人一人が、授業改善の提案

した授業検討会>	等について必然的に話すことを求められる検討会
<プロセスシートを活用した授業検討会>	授業者は、授業のねらいや願いと、児童生徒とのかかわりにおいて起きた事実とのずれを確かめたり、自分自身の言葉で内面を語ったりしながら、授業改善の気づきを参観者とともに得ることができる検討会
<フリーカード法による授業検討会>	参観者の多様な授業の見取りや質問事項を記入したカードを時系列・項目ごとに整理することにより、参観者の視点を明らかにしたり、焦点化した話し合いを行ったりして、授業者は授業改善の気づきを参観者とともに得ることができる検討会
<全体での協議・助言を中心とした授業検討会>	授業者と参観者は、児童生徒の学びの姿を通して語り合うが、あまり形式にとらわれず、自由に意見交換ができるとともに、十分な指導助言の時間を確保した検討会

イ 類別化による選択の視点

	名称	選択のポイント
I 参加型	<ワークショップ形式の授業検討会>	◇グループやペアを活用するため、参観者全員が、平等に発言の機会を与えられ、活発な意見が出やすい授業検討会
	<ペアの話し合いを活用した授業検討会>	◇協議の視点が明確になり、焦点化した話し合いが容易に可能な授業検討会
II 気付型	<プロセスシートを活用した授業検討会>	□授業者の願いを大切にし、共感的雰囲気、授業者の授業改善の気づきを促す授業検討会
	<フリーカード法による授業検討会>	□「こうすればよかった」「こうすべきだ」といった批判的仮定論や一般論が出ない授業検討会
III 助言型	<全体での協議・助言を中心とした授業検討会>	☆特別の準備が不要で、指導助言や参観者の専門性を高めたといった要求に応える授業検討会

上記のように、五つの授業検討会の特徴から、三つに類別化してみた。「参加型」「気付型」「助言型」というキーワードは、それぞれの授業検討会のねらいを示していることが、研究実践から確認された。

ウ 授業検討会のよさと課題による選択の視点

～研究協力校2校、調査研究委員の所属校での実践後のアンケート等から～

五つの授業検討会について、数多くの意見や感想が寄せられた。それらを「よさ」と「課題」という視点からまとめると次のように集約することができる。

※調査対象数：96名

名称	よさ	課題
<ワークショップ形式の授業検討会>	○全員参加 ○楽しさ ○だれもが話しやすい雰囲気 ○教員相互の学び合い、認め合い ○様々な見方の違いの交流と共有 ○カードの島分けによる話し合いの目的化・焦点化・深化 ○チーム意識の高揚	●時間の延長 ●KJ法の理解 ●付せん貼付時のコメントの長さ ●全体会(まとめの部分)の充実 ・課題の解決 ・改善の具体化 (複数の小グループ編成の場合)

<p><ペアの話し合いを活用した授業検討会></p>	<p>○全員が前向きに参加 ○安心感 ○だれもが話しやすい雰囲気 ○密度の濃い意見交換 ○話し聞くことの必要感 ○焦点化された協議 ○異校種間交流に対応可能</p>	<p>●全体会（まとめの部分）の充実（ペアの話し合いを通した、全体での話題の取り上げ方、広げ方）</p>
<p><プロセスシートを活用した授業検討会></p>	<p>○児童生徒の動き・つぶやき等が時間の経過とともに書きやすいシートの活用 ○授業者の願いの共有 ○共感的雰囲気（授業者を大切にする意識）</p>	<p>●プロンプターという役割の難しさ（教科・学年等の支援） ●授業者の気付きを促す参観者の働きかけ方（発言の制約） ●児童生徒の学びの姿から手だてや授業展開の改善への具体化 ●人数制限</p>
<p><フリーカード法による授業検討会></p>	<p>○授業者の願いの共有 ○時系列による多様な学びの姿の見取りとカードによる視覚化 ○カードによる焦点化 ○授業改善の気付きの主体的獲得</p>	<p>●プロンプターという役割の難しさ（教科・学年等の支援） ●参観者の発言の制約 ●人数制限</p>
<p><全体での協議・助言を中心とした授業検討会></p>	<p>○十分な助言の確保 ○専門性のある情報が得られる自由な意見交換 ○聞くことによる学びの獲得</p>	<p>●参加意識（他人事になる危険性） ●授業者批評の恐れ ●協議内容の偏り（発言力の差） ●児童生徒名が出なくなること ●力量のある助言者の確保</p>

このように万能の授業検討会は存在しない。それぞれの「よさ」と「課題」を踏まえ、各学校等が、授業検討会を選択するための有効な資料となると思われる。

エ 様々な違いによる選択の視点

積み重ねてきた実践から体験的に、授業検討会の違いを集約した。また、各学校等が、授業検討会を選択する際に、情報としてとらえておきたいと推測される五つの視点から、以下のよう整理した。

略名称	授業者の要望	形態	司会者の心得	参加人数	準備物	その他
<ワークショップ形式>	・多くの改善策の獲得	グループ全体	KJ法の理解	1グループ 5,6人の 1～4班	付せん紙 短冊 模造紙	
<ペアの活用>	・手だて（提案）の検証	ペア全体	ペア協議の方法の理解	10人以上 何人でも	短冊 記録シート	参加経験なしでも容易
<プロセスシート>	自らの気付き	全体	リフレクションの理解	2人から10人程度まで	プロセスシート	助言との兼ね合いが難
<フリーカード法>		全体	リフレクションの理解	7,8人から15人程度	付せん紙 台紙	助言との兼ね合いが難
<協議・助言中心>	十分な助言	全体	助言のタイミング	会場の許す範囲	なし	

(2) 今後の取組

＜正確な授業検討会の普及のために＞

今回提案した授業検討会に共通した基本理念やそれぞれの授業検討会の方法を、正確に共通理解しないまま実施した結果、うまくいかなかったという声を耳にしたり、目の当たりにすることが多い。そこで、次のような手だてから、正確な普及を図っていききたい。

- ① 資料「授業検討会基本モデル」の共通理解
～「学習指導訪問」の事前打合せや実施場面、「校内研究推進協議会」の活用
- ② 授業検討会に関する校内研修に対する講師派遣
～「校内研究等サポート事業」での活用～
- ③ 指導主事等による授業検討会の進行
～検討会に不慣れな学校に対しての「訪問研修」等での活用～
- ④ 「授業検討会研修会」の新設
～「リフレクション研修会」から、多様な授業検討会を対象とする研修会の実施へ～

7 各学校等への期待

(1) 各学校等における授業検討会の選択

各学校等が、校内研究のねらい、学校の実態・状況、教職員の希望に応じて、授業検討会を選択していくことが校内研究の活性化の視点からも望ましいと考える。

例えば、……

<p>＜ねらいに応じて選択すると……＞</p> <p>低学年部会のねらい：積極的に授業改善の具体を語りたい→ワークショップ形式 中学年部会のねらい：共感的雰囲気の中で授業者の気付きを促したい→フリーカード法 高学年部会のねらい：研究1年目で多くの専門的助言を得たい→全体での協議・助言</p>
<p>＜多様な学校の実態・状況に応じて選択すると……＞</p> <p>近隣校・異校種間連携：授業検討会の体験が異なっても、初対面でも可能→ペアの活用</p>
<p>＜初任研といった研修意図から選択すると……＞</p> <p>初任者が、指導教員とともに詳細に授業を振り返っていく→プロセスシートの活用</p>

(2) 各学校での主体的な授業検討会の工夫改善

本センターが提案してきた授業検討会の考え方や方法の理解や実践を踏まえ、各学校等が、それぞれの思いや願いを実現するため、より一層の工夫改善をしていくことを期待したい。各学校が本研究を引き継いでいってくれることを願ってやまない。

<p>＜参考文献等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『授業研究入門』稲垣忠彦・佐藤学著 岩波書店 1996.4 ○『子どもの姿に学ぶ』—「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」 鹿毛雅治著教育出版 2007 ○『教育実践臨床研究 自分の授業に学ぶ』藤沢市文化センター 2005 ○講話「授業とは、授業検討会とは」 講師 相澤秀夫（H 18. 7 仙台市立田子小にて）
--

仙台市教育センター 佐々木成行

第2部

研究協力校の取組

基本モデルでの実践

児童生徒の学びが見える
授業検討会の工夫改善を通じた
校内研究の活性化

I ワークショップ形式の授業検討会とペアの話し合いを活用した
授業検討会

仙台市立三条中学校 鈴木 裕太

II プロセスシートを活用した授業検討会とフリーカード法による
授業検討会

仙台市立連坊小路小学校 板橋 宏明

研究主題

生徒の学びが見える授業検討会の工夫改善を通じた校内研究の活性化

ワークショップ形式・ペアの話し合いを活用した授業検討会を通して

長期研修員 三条中学校 鈴木 裕太

授業公開の拡大

全担任の道徳授業(年10回)
授業の見方の転換(生徒の学びの姿で)



授業検討会の取組

ワークショップ形式 ペアの話し合い

全体協議の工夫

KJ法の活用



校内研究の成果

全体協議の充実 学び合いの高まり 学びの姿から授業改善

プロセスシートを活用した授業検討会とフリーカード法による授業検討会

長期研修員 連坊小路小学校 板橋 宏明

昨年
・授業リフレクションの理解不足
・学びの姿を見取る力の不足



学びが見える授業検討会

全員授業公開 25回

教科研究部での支え合い

管理職の支援

教材研究・プロンプター

授業検討会の工夫改善

プロセスシート フリーカード法

検討会での成果
・授業改善の手がかり
・次の授業への活力
・学びを見取る力の向上

校内研究の成果

充実した授業検討会・学び合い



※調査研究発表会(2/7実施)における発表ポスターから

◇研究協力校：三条中学校の取組

ワークショップ形式の授業検討会と ペアの話し合いを活用した授業検討会

1 はじめに

(1) 主題設定の理由

本校の昨年度までの校内研究の実態は、授業公開が1回、その後に行った授業検討会も1回というものであった。特に授業検討会は、従来から行われていた形式で行い、事後のアンケートには次のような意見が多く寄せられ、校内研究の課題が明らかになった。

課題

- 授業公開と授業検討会が年1回では少なすぎ、継続的な取組にならないこと。
- 授業検討会のねらいが不明確で、活発な話し合いにならないこと。

そこで今年度は授業公開を拡大し、ワークショップ形式の授業検討会とペアの話し合いを活用した授業検討会を通して校内研究を活性化したいと考え、本研究に取り組むこととした。

(2) 研究の基本的考え方

本主題を次のようにとらえ、その姿に近づくように研究を進めていく。

[校内研究の活性化した姿]

- ① 教師の学び合いや支え合い（同僚性）が成立している状態
- ② 日常的に授業を開き、継続的に授業改善の取組を行っている状態

(3) 研究の目標

授業公開を拡大し、「生徒の学びの姿が見える」という視点を取り入れた二つの授業検討会に繰り返し取り組み、校内研究の活性化を目指す。

(4) 校内研究の手だて

目的を達成するために、次の2点に重点的に取り組んでいく。

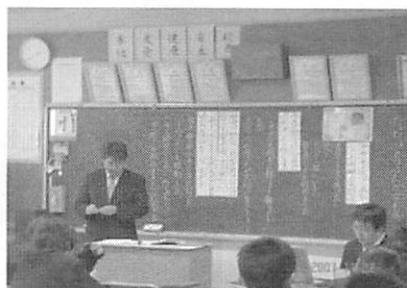
手だて

- ① 授業公開の拡大（年10回に） すべての学級担任の道徳の授業を公開し、日常的・継続的に教員相互が学び合える環境をつくる。
- ② 授業検討会の充実（年9回に）
 - ・ワークショップ形式の授業検討会を5回実施し、KJ法の活用の理解を深めるとともに全体協議の充実のための工夫を行う。
 - ・ペアの話し合いを活用した授業検討会を4回実施し、ペアの話し合いの活用の仕方の理解を深めるとともに全体協議の充実のための工夫を行う。

2 ワorkshop形式の授業検討会の実際

【授業の内容】

11月27日 2年生道徳の授業公開
 主題：たったひとつのたからもの（4-6家族愛）
 ねらい：家族の愛情を実感させ、家族に対する感謝の気持ちや尊敬する心情を育てる。



(1) 特徴とよさ

- グループ作業や協議を通して全員が参加できる。
 - 付せん紙の貼付時などに平等に発言機会がある。
 - カードを活用して話題の焦点化ができる。
- など

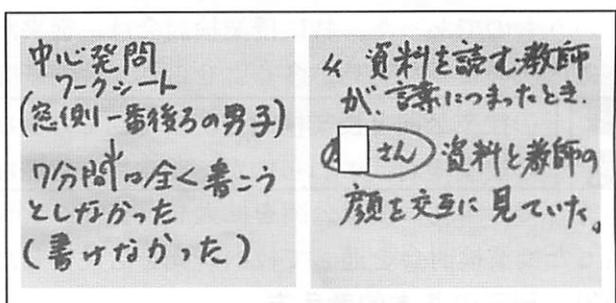
授業者・参観者が一体となって、授業改善の提案を具体化していく検討会

(2) 事前の取組

① 付せん紙

- 一人5枚程度準備する。
- 生徒の学びの姿を記入する。
(個人でも全体でも構わないが、名前を出して書くと検討会が盛り上がる)
- プラス面、マイナス面が偏らないように記入する。

【付せん紙の記入例】



② 司会とグループ分け

- 参加者を事前に6名程度のグループに分け、グループ司会を決めておく。

③ 指導案のコピー

- 指導過程の拡大コピーでKJ法を行う場合は、本時のねらい・手だて(提案)・指導過程が1枚に収まるように指導案を準備する。

(3) 授業検討会の実際

	主な項目と時間	内容・留意点
導入	1 オリエンテーション (3分) 2 授業者からの説明 (5分)	○参観者は、授業者がどんな思いや願いを込めた授業か、しっかりと聞いておきたい。 ○授業者は、お礼や言い訳の場にせず、思いや本時のねらい・手だてを詳しく語る。
展開	3 自己紹介 (2分)	○自己紹介は、アイスブレイキングの効果絶大である。グループ司会から率先して行いたい。 ○好きな食べ物、血液型、星座等から一つ名前に加える程度に。
	4 作業 (15分) (1) 付せん紙の貼付	(1) 付せん紙を拡大コピー (または白紙の横造紙) に、一言述べながら持ち札すべてはる。 ○一人5枚程度、一言は10秒以内とする。 ●付せん紙の貼付で、時間をかけ過ぎる傾向が見られるので、この作業は簡潔に進める。

(2) 島分けと表札

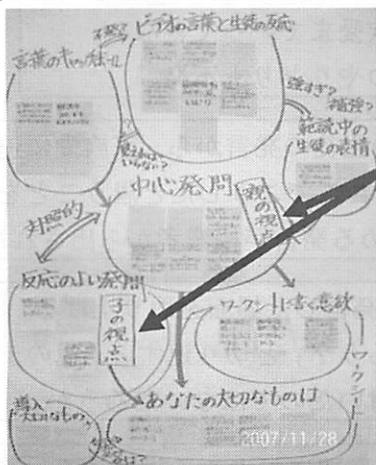


(2) 親しい付せん紙を集めて島分けをし、表札(タイトル)をつける。

- 直感で、似たもの同士を集める。
- 島分けが終わったら、それぞれの島に表札(タイトル)をつける。表札や空間配置も、自由に発想し、グループの個性を出したい。

(3) 協議内容の焦点化

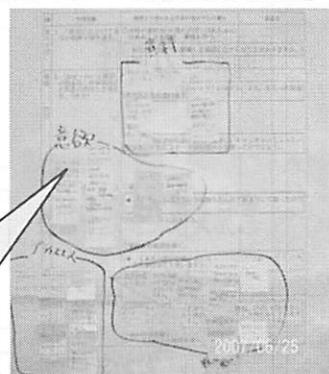
【白紙の模造紙で空間配置した例】



(例) このグループは
中心発問(親の視点)と
反応のよい発問(子の視点)に
協議内容を焦点化した。

- 作業は比較的短く済む。
- 時系列で付せん紙が集まることが多いので、KJ法の活用はしにくい。

【拡大コピーを使用した例】



5 協議 (35分)

- ◇授業の成果と課題について
- ◇成果と課題の短冊化

5 成果と課題を大きな短冊に記入する。
(グループ数を踏まえ、記入する短冊数を決めるとよい。)

S君の発言
だけど...

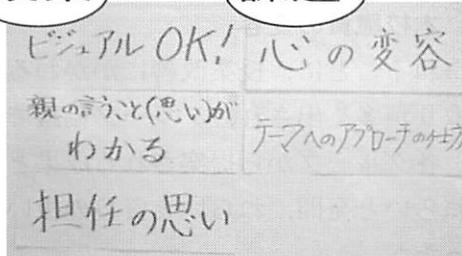
その発言からねらい
に迫れたかも...



短冊にまとめる

成果

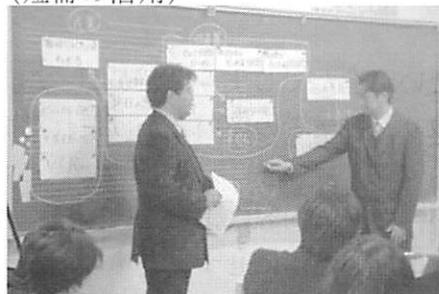
課題



ま
と
め

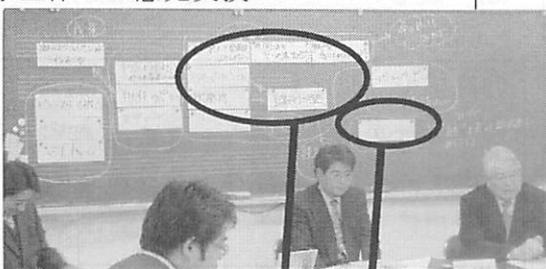
6 全体協議 (15分)

- ◇各グループから成果と課題の発表(短冊の活用)



- 全体司会は成果と課題を、短冊を活用しながら整理する。
- 全体協議になると、生徒の姿が置き去りにされる可能性があるため、できる限り、司会者は、提案の背後にある生徒の学びの姿を発表者から引き出したい。
- 短冊化で一方向的な授業者への批評になる恐れもある。十分にその点は配慮したい。

◇全体での意見交換



○全体協議の時間をいかに充実させるかが、重要であると考えられる。この時間が充実すれば、授業者と参観者が一体となり、授業改善策を具体化していく場面となる。

【改善策の検討例】

全体協議で取り上げた課題	○発問は生命尊重で終わって家族愛までいっていない。 ○発言、発表が少なく、生徒とのやりとりも不発。
協議の方向性	「今日の授業のどの場面の、どの生徒の発言から、家族愛に迫っていただろうか。先生方なら、ここでこうしたと思うことを教えてほしい。」とアドバイスを求める発言が授業者から出された。
意見交換で参観者から	S君が「大変なのに元気そう」と発言した場面を取り上げる。「元気に見えるのはどうしてだろう？」と切り返すと、親の支えや愛情がそうさせていると気が付いたのではないだろうか。
具体化した改善策	S君の発言をとらえるためには『発問に対する予想される生徒の反応をもっと深く掘り下げておくこと』が必要だった。

7 指導助言 (10分)
8 授業者等によるまとめ (5分)

(4) ワークショップ形式の授業検討会 (年間5回) を終えて

① 本校職員の変容

○回を重ねるごとに、授業改善にかかわる授業中の生徒の姿の見取りが多く出され、グループ協議で活発な議論が行われた。各グループから提案される成果と課題は、道徳の本質 (ねらいと発問、ねらいと資料の扱いなど) をつくようになった。



○この検討会に取り組み始めたころは改善策の検討まで時間内に行えなかった。短冊を活用して全体協議の視点を明確にし、協議の方向性の共通理解を図ったことで、改善策の検討までスムーズに行えるようになった。

② 留意すべきこと

○グループ協議のとき、授業者不在でどんどん話し合いが進んでしまうことがあった。協議中に生じた疑問などは、授業者にその都度、確認を取り、授業者の願いとかけ離れた提案にならないようにしたい。

○全体協議で短冊を活用して話題の焦点化を図ったが、短冊の内容によっては、授業者にとっては大変厳しい場面になる可能性がある。批評を目的とした場にせず、授業者とともにみんなで改善策を練り、よりよい授業を目指そうという場の雰囲気作りが大切である。

3 ペアの話し合いを活用した授業検討会の実際

【授業の内容】

10月26日 1年生の道徳授業公開
 ねらい：相手を傷つけずに自分の気持ちを伝える方法を考える
 ことで、相手を思いやる心情を養う。(2-②思いやり)
 手だて (ねらいに迫るための授業者からの提案)
 :アサーショントレーニング (さわやかな自己主張)



(1) 特徴とよさ

- 協議の視点 (ねらいと手だての検証) が明確。
 - 全員が必然的に話すことができる。
 - 話しやすい雰囲気がある。
- など

参観者一人一人が授業改善の提案等について必然的に話すことを求められる授業検討会

(2) 事前の取組

① 指導案

協議の視点がねらいと手だて (授業者からの提案) の検証であるので、ねらいと手だてを明記した指導案を準備する。

② 記録用紙の活用

ペアで意見交換をするので、授業中の生徒の学びの姿の記録がとても大切になる。右図のような記録用紙を活用し、一人一人がしっかりと記録を取りたい。

【記録用紙の例】

教師の発問指示	生徒の学びの姿	記録者の判断提案
発問「本当のやさしさとは？」	Tくんが「プライスレス」と答えた。	その言葉に込めたTくんの思いを引き出したい。

(3) 授業検討会の実際

	主な項目と時間	内容・留意点
導入	1 オリエンテーション (5分) 2 授業者からの説明 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○参観者は、授業者がどんな願いを込めてつくった授業かしっかりと聞いておきたい。 ●授業者は、お礼や反省、言い訳の場にせず、自分の思いを詳しく語りたい。
展開	3 協議 I (授業者からの提案を基に) (1) ペアでの意見交換 (10分)	<p>司会と授業者は、座席を巡回しながら話し合いの内容をとらえておく。 司会→全体協議の意図的な指名に生かせる。 授業者→説明のポイントが見えてくる。</p>



〇〇先生は生徒の反応をよく見えていますね。△くん
 に指名したとき.....

なるほど
 なるほど



- 自分の授業記録を基に一人ずつ意見を述べる。
- それぞれが意見を述べた後、自由に語り合う。

(2) ペアからの発表 (20分)

私と◇先生、二人で話し合った内容は、手だて1について……ということでした。



○ペアの片方が二人分の話し合いの内容を紹介する。

●生徒の学びの姿で話し合いをしていますが、発表の時にそれが紹介されない場合があります。司会者は原則である生徒の姿を通した意見を、発表者から引き出すようにしたい。

(3) 成果と課題の整理 (15分)

◇司会による成果と課題の確認

【例:1年生の道徳の授業では…】

成果:思いやりの心情を育てるためにアサーショントレーニングは有効
課題:ロールプレイのさせ方には課題が残る

課題について、ペアで改善策を話し合いましょう。



◇ペアによる改善策の検討

第三者の立場で考えさせる。



ビデオで場面提示したら?

考えを全体で共有したいね。



少人数の班活動にして…

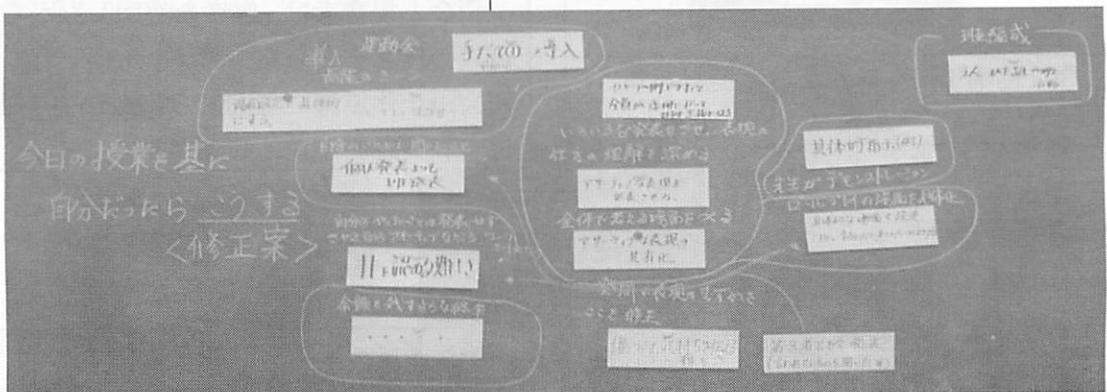


発表場面をもっと入れる?

役割の明確化?

◇改善策の発表

○各ペアは、短冊に記入した改善案を発表する。
○短冊を活用することで、発表内容が簡潔・明瞭になるメリットがある。
○司会者は発表を聞きながら、下図のように、短冊をまとめたり、線で結んだりしてポイントをまとめていくと、一層効果的である。



◇意見交換				
<p>【ペアの提案から次時の改善策を具体化した例】</p> <p>○ペアからの授業改善のための提案は大きく分けて次の六つだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫について ・資料の扱い方について ・意見の共有化について ・ロールプレイ時の指示について ・班編制の仕方について ・終末の工夫について <p>○これらの提案から「意見の共有化」と「ロールプレイ時の指示」を授業者は取り上げ、次時に生かしたいとの思いを話した。</p>				
4	協議Ⅱ	※協議Ⅱは必要に応じて設定する。		
ま と め	5	指導助言（10分）	5	授業者の思いを踏まえた助言。
	6	授業者等によるまとめ（5分）	6	授業者等が、ねらいの達成状況や手だての成果と課題をまとめ、次へつなげる。

(4) ペアの話し合いを活用した授業検討会（年4回）を終えて

① ペアの情報交換の勢い

この検討会にはじめて取り組んだのは8月であったが、そのときからペアの情報交換には勢いがあった。司会が「では、情報交換をどうぞ。」と指示した瞬間に、各ペアが話し始めた。検討会会場がはちの巣を突ついたような状態になり、とても前向きに取り組める検討会であると感じた。「こんなに自分の意見を語ったのは久しぶりだった。」や「自分の意見を言うだけでなく、相手の意見をきちんと聞かなければならないので、しっかりと参加することができる。」などに代表される感想が多く、好意的にこの検討会をとらえた職員は多かった。

② 留意すべきこと

<同じ生徒を見ていないと議論できないという誤解>

職員から、「ペアの情報交換のとき、同じ生徒・学習場面を見ていないと話し合いが深まらない。」という意見がいくつかあった。この検討会の目的は“ねらいと手だての検証”であるので、自分が見取った生徒の姿とねらい(手だて)を関連付けて意見を述べていくことが必要である。同じ生徒を見ている必要は必ずしもない。かえって、別々な生徒を観察して報告し合った方が、本時のねらいが達成されたかどうかを判断する材料が多くなり、話し合いを深めることができると考える。本校でこのような感想がいくつか出てきたのは、検討会の目的を周知徹底できていなかったことに原因があると考えられる。

<生徒の学びの姿がなくとも意見交換ができてしまう>

授業中の生徒の学びの姿の報告がなく、はじめから指導技術や指導過程の善しあしだけを論じてペアの情報交換は成立してしまう。そのようなときは、「今の先生の話の裏付けになる生徒の姿を教えてください。」などと、もう片方のペアは切り返して、お互いに生徒の学びの姿を基に話し合いが行われるように心がけたい。

4 おわりに

(1) 校内研究の成果

今年度の取組の成果として、次の3点を上げることができる。

① 短冊の活用で全体協議が充実

はじめのころは、ワークショップもペアの検討会も前半を行うのに精一杯だったが、回数を重ねる内にKJ法やペアの情報交換にも慣れ、スムーズに進められるようになった。慣れてくると全体協議の充実を求める声が多くなり、限られた全体協議の時間を有効活用するために、グループ協議やペアの話し合いの内容を短冊に記入し活用することにした。「全体協議の論点が明確になり、話し合いが脱線しなくなった。」や「グループやペアの発表内容が簡潔で分かりやすくなった。」など、肯定的な意見が多く寄せられるようになり、不満が解消された。



② 教師の学び合いの高まり

グループ協議や全体協議が充実してくると、検討会が教師同士の学び合いの場となった。授業改善策を話し合う中で「いろいろな同僚の考えや思いに触れることができる。」や「自分の思いつかない発想や考えに出会える。」、「自分には見えていなかった生徒の学びの姿に気が付くことができる。」など、学び合いの高まりを感じさせる職員の感想が多く出されるようになった。



③ 提案された改善策を取り入れた次の授業の指導案づくり

検討会で提案された授業改善策は次の授業公開の指導案作成に生かされ、道徳の授業改善が図られていった。「最近の道徳、何か違うよね。」と掃除をしながら友達と話をしていた2年生の女子の様子や、体調を崩して保健室で休んでいた3年生の男子が「次は道徳の授業だから教室に戻りたい。」と養護教諭に話していたことなどが職員室で話題となった。生徒の目から見ても道徳の授業が変わってきたと感じてもらえたことをうれしく思うと同時に、今年度の取組を通して授業改善が図られてきた証として自信を深めることができた。

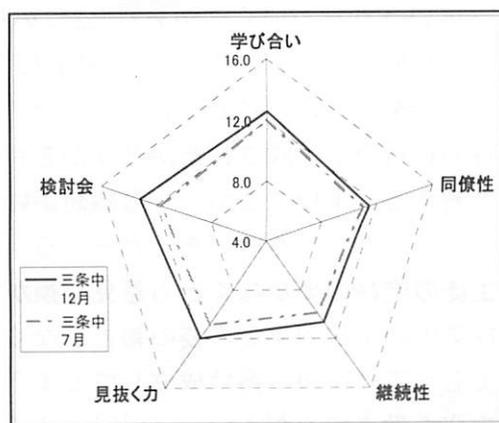
(2) 今後の課題

昨年度と比較すれば本校は大きな一歩を踏み出し、校内研究の活性化に向けて動き出したが、実践を始めてまだ1年である。今年度の取組を継続することが重要であり、今後の課題と言える。

7月と12月に行った教員意識調査の結果(右図)から、校内研究の継続性と校内の支援体制(同僚性)は伸びてはいるが、他の3項目に比べれば水準が低く意識調査からもその二つの向上が今後の課題であると裏付けられた。指導案作成や準備等で授業者を支える体制を整え、2年、3年と取組を積み上げていった先に校内研究の活性化が実現できるものと考えている。

仙台市立三条中学校 長期研修員 鈴木裕太

教員意識調査結果



◇研究協力校：連坊小路小学校の取組

プロセスシートを活用した授業検討会と
フリーカード法による授業検討会

1 はじめに

(1) 主題設定の理由

本校では、昨年度から授業リフレクションを基にした授業検討会を取り入れ、校内研究を進めてきた。その結果、一定の成果をあげることができたが、同時にいくつかの課題が見えてきた。

「課題」

- 授業リフレクションの考え方が浸透しなかったこと。
- 具体的な見取りができなかったこと。
- 学びの姿の意味まで見える話し合いにはならなかったこと。

この課題をふまえ、昨年度から取り組んでいる授業リフレクションを、プロセスシートを活用した授業検討会とフリーカード法による授業検討会に整理することで、同僚と支え合い、継続的に授業研究を行う校内研究の活性化を目指して、本研究に取り組むこととした。

(2) 研究の基本的な考え方

本主題を次のようにとらえ、その姿に近付くように研究を進めていく。

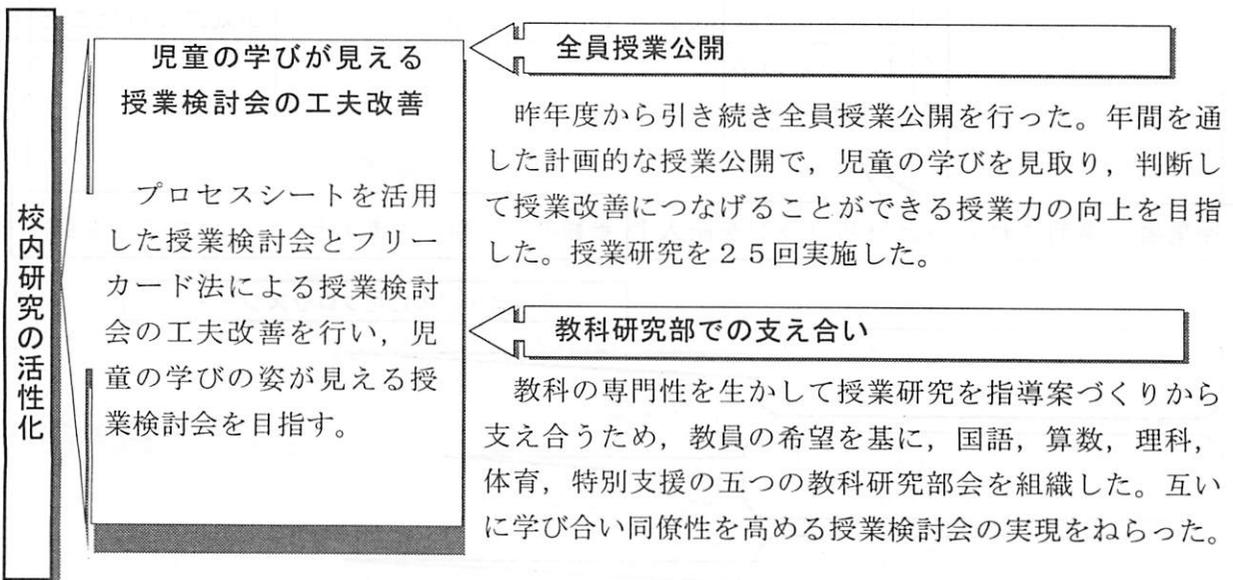
[校内研究の活性化とは]

- ① 教師同士が互いに学び合い、学びを支え合う姿（同僚性）
- ② 次の授業につながる、日常的・継続的な授業研究を行う姿（継続性）

(3) 研究の目標

児童の学びが見える授業検討会の工夫改善を行うことで、校内研究の活性化を目指す。

(4) 校内研究の手だて



2 プロセスシートを活用した授業検討会の実際

【研究授業 6年理科「水溶液の性質とはたらき」】

【思いや願い】

理科と実生活との関連

【授業のねらい】

日常生活と結び付けながら、水溶液の性質を正しく理解する。

(1) 特徴とよさ

- 学びの姿の交流を通して、授業者の気づきを促すこと。
- 授業者の内面思考の語りで見取った事実とのずれを確認すること。
- 授業者を大切にできる共感的雰囲気があること。

(2) 事前の取組

① 授業づくりの共通理解

プロンプター(司会者)、教科研究部員とともに授業づくりにつ

いて打合せをした。ここで、事前に授業者の願いや授業のねらいを全員で理解した。

② プロセスシートの作成

【プロセスシート】

ねらい、当初プラン、事実(先生)(児童)、気になったことの5項目で構成。サイズはA4版表裏。

プロセスシート 【学年組 教科 授業者】 日付

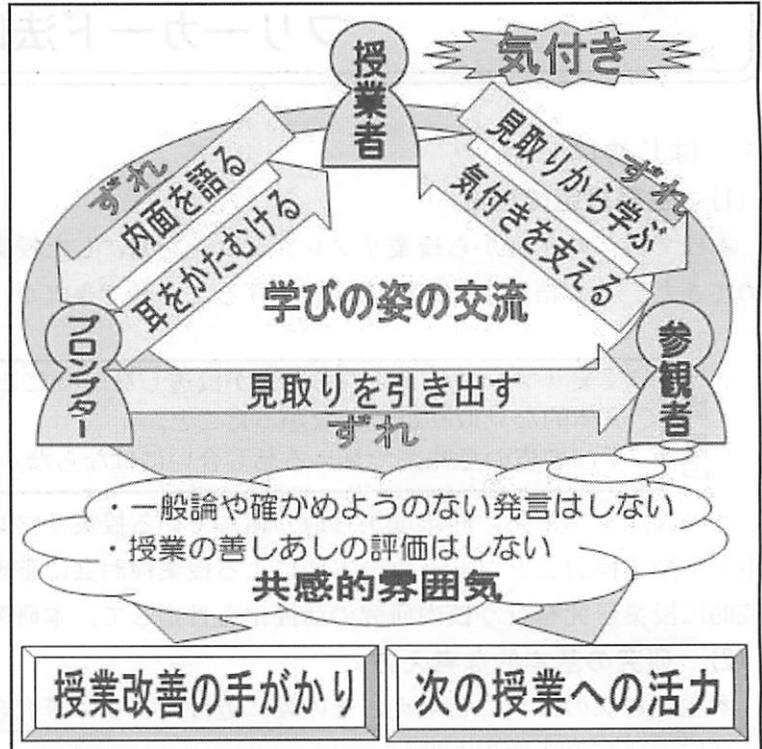
①授業のねらい

②当初プラン	③事実(先生)	④事実(児童)	⑤気になったこと
1 前時の学習活動を想起し・・・			

授業者：事前にねらいと当初プランを記入

参観者：参観中の事実と気になったことを記入

<プロセスシートを活用した授業検討会の特徴>



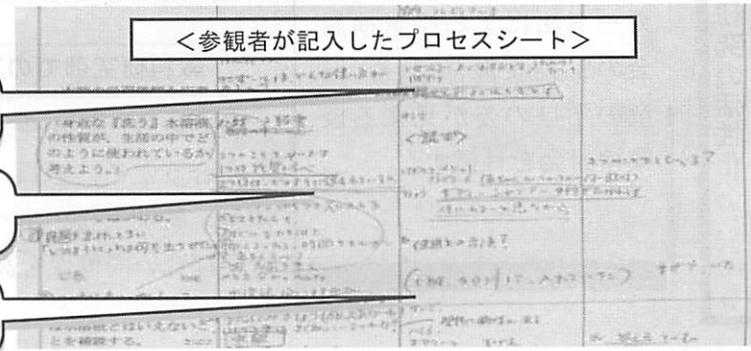
<プロセスシート>

<参観者が記入したプロセスシート>

事実(児童) 太郎 ボディソープの緑色は、にごっているよ。

事実(教師) 洗濯洗剤の色は、幅がありすぎて分からないね。

事実(児童) 次郎 すぐに色が変わったよ。



(3) 授業検討会の実際

導 入	 <p>今日の授業で実現したかった願いをお話してください。</p> <p>授業者の思いや願い、本時のねらいを理解する。</p> <p>自分の願いは、生活の中に生きる理科をつくることです。 ねらいは水溶液の性質の正しい理解です。</p>  <p>願いやねらいを語る。</p>
展 開	<p>参加者は見取った学びの姿を交流し合う。</p> <p>実験がスタートしました。ここでの見取りはありませんか。</p> <p>アルカリ性の色合いの違いが分かりにくいという子供がいました。</p> <p>ボディソープは濃い緑色になったという子供がいました。</p> <p>比色表と同じように色ごとに試験管を並べ替えているグループがありました。</p> <p>終わりのチャイムが鳴っても、子供たちはずっと実験を続けていました。</p> <p>授業者は気付いたことを率直に話す。</p> <p>たくさんの実験の様子が出てきましたが、先生はどのように見ていましたか。</p> <p>身近な洗剤とムラサキキャベツを使ったことで、子供たちは実感をもって意欲的に活動していたと思います。しかし、ムラサキキャベツの色合いの違いを比べるのは難しいようです。生活に根ざした理科を目指した活用型の授業展開でしたが、水溶液の性質の理解というねらいを達成するためには、リトマス紙を使った習得の時間を十分確保した方が、理解がスムーズだったかも・・・。</p> <p>プロンプターは授業者の内面の語りを促す。</p>
ま と め	<p>プロンプターは修正点や印象の変化、授業後の手応え等を聞く。</p> <p>次に2組でやるとしたらどこを修正したいですか。</p> <p>授業者は次の授業での修正点や検討会前後の印象の変化等を話す。</p> <p>理科と生活との関連を目指した授業展開では、リトマス紙を使った習得の時間以上に結果が細かく出てきました。水溶液の性質の理解というねらいを達成するためには、特徴のある洗剤を吟味して、グループごとの結果の違いをとらえて子供たちに返すなど、性質がはっきりと分かるよう気を付けて指導したいと思います。</p>

(4) プロセスシートを活用した授業検討会を終えて

① 授業改善の手がかり

【授業者】 参観者の見取りから、授業者の願いであった理科と実生活との関連から、ねらいを実現することの難しさを感じた。そのためには洗剤を吟味しておく、グループごとにずれる実験結果をグループに返して再検討させるなど、授業改善の手だてについて考えることができた。

〔参観者〕年度当初は漠然とした批評的な見取りが多かったが、11月ともなると「教材・教具の準備が大切だと感じた。」「理科を生活と関連付けるためには、グループごとにずれてしまう実験結果を、きちんと整理することが大切だと思った。」などのアンケート結果から、参観者は研究を自分のこととしてとらえ、授業者から学ぶことができたと思われる。

② 次の授業への活力

共感的雰囲気で行うことができたため、参観者は学びの姿を交流し合うことの楽しさを感じることができた。また授業者は、指摘されずに授業改善の手がかりを自ら獲得したという充実感を感じたため、「おもしろかった、またやりたい。」という発言が生まれた。このように、授業者、参観者とも次の授業への活力を得ることができた。

③ 授業検討会を支えるプロンプターの心構え

<プロンプターとして押さえるべきポイント>

導 入	□リラックスした雰囲気をつくって始める。 □授業者の願いや思いを語ってもらう。
展 開	□授業者が見取っていたことを明らかにする。 「机間指導中、先生はどのようなことを見取っていたのですか。」 □授業者の語りを共感的に理解する。 「なるほどね。」「ふうん、子供たちはいつもと違ったんですか。なぜでしょうか。」 □学びの姿の意味を問う。
ま と め	「△△さんは、百の位からひき算を始めていましたが、先生はなぜそうなったとお考えですか。」 □授業者の願いと学びの事実を比べる。 「今日の具体的見取りでは、発表はほとんど説明の上手な子によるものでした。先生が分からない子に指名しなかった意図はありますか。」
ま と め	□気づきを語ってもらう。 「授業の手応えを聞かせてください。」 □今後の方略を自分の言葉で語ってもらう。 「今後の授業展開は、どう考えていますか。」「先生が気づき、修正したいことは何ですか。」

上記のポイントを押さえた上で、安心感を与える笑顔やさわやかな語り口など、自分の持ち味を生かしながら、プロンプターを行っていくとよい。

④ 見取る力の向上

授業検討会を続けることによって、参観者は児童の学びをより具体的に姿で見取ることができるようになってきた。次は、同じ参観者による学びの姿の見取りの変化である。

<同じ参観者による見取りの変容>

<p>[7月4日] 理科 子供たちは実験の意味が分かっていなかったと思いますよ。</p>		<p>[9月26日] 理科 先生は「洗剤の量が足りなくて反応が出ないだけの中性には、もっと洗剤を加えてみましょう」と指示しましたね。2班の洗濯洗剤は、たくさん入れたら緑に変化していましたよ。</p>
<p>・授業者を批評する見取り → ・グループごとに結果が少しずつ違っているという見取り ・漠然とした見取り → ・教師の指示と児童の活動との関連を表す具体的な見取り</p>		

3 フリーカード法による授業検討会の実際

【授業研究 5年理科「流れる水のはたらき」】

[思いや願い]

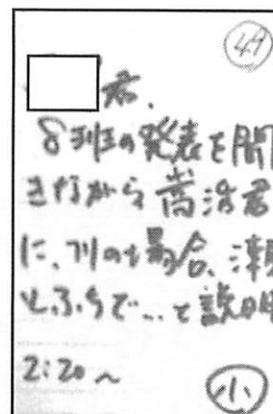
自作教材を使ってグループごとに実験に取り組みませ、全員が教材に積極的にかかわることで、理科の楽しさを実感させたい。

[授業のねらい]

流れる水のはたらきの水量による違いを、人工の流れをつくって実験した結果からとらえることができる。

(1) 特徴とよさ

- 児童の学びの姿の交流を通して授業者の気づきを促すこと。
- 時系列・項目ごとにカードを整理して、参観者の視点を明らかにしたり焦点化したりすること。



(2) 事前の取組

① 授業づくりの共通理解

プロンプター（司会者）、教科研究部員とともに授業づくりについて打合せをした。ここで、事前に授業者の願いや授業のねらいを全員で理解した。

② 時系列表の作成

[横軸は時刻] 5分もしくは10分間隔で目盛りを付ける。

[縦軸は項目] 「授業の内容」「児童の活動」「教師の活動」「教材・学習環境」の4項目の欄をつくる。「児童」と「教師」の2項目でも可能。

③ 付せん紙

市販品の中で最大のもの（150mm × 100mm）に油性ペンで記入する。全員が記述内容を確認することで、見取りを共有しながら話し合うことができる。

(3) 授業検討会の実際

① 見取った事実をカードに記入

一人4枚程。授業中に見取った事実、時刻、記入者の名前を記入する。授業中に見取った事実は1枚につき1項目記入する。時刻は、授業を振り返る際にカードの順序を確かめるため、名前の記入は、記入者に詳しい説明を求める際に使用する。

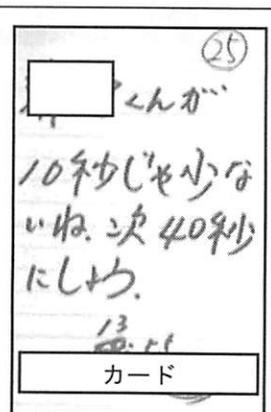
② 作業

ア 項目ごと時系列でカードを掲示

記入したカードを時系列表に掲示する。プロンプターは、授業を振り返る際にどのカードを使って話し合いを進めていくか方針を立てるため、参観者が掲示している間にカードの記述内容を確認する。

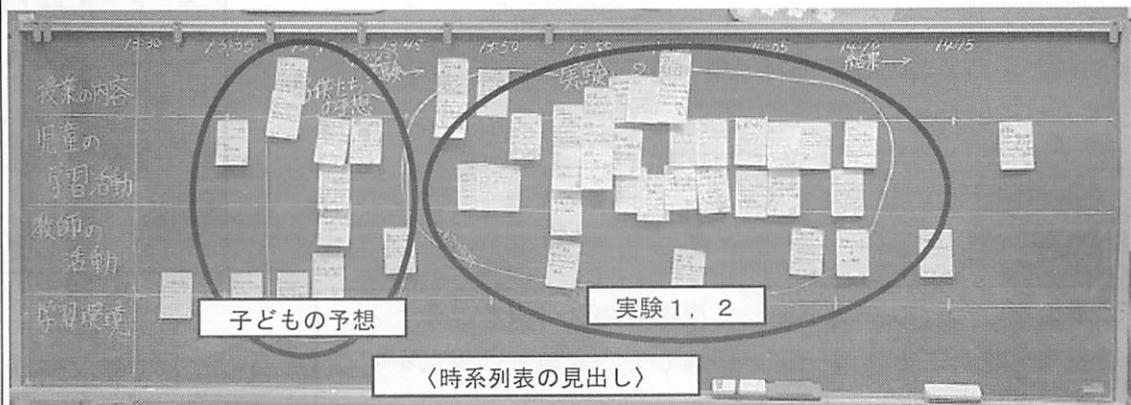
[プロンプターの確認作業]

- ・話し合いの中心になるカード



- ・同じまとまりにあるカード
 - ・関連する内容のカード
- イ カードのまとまりへの見出し付け

導
入



③ 授業者からの説明 授業者は思いや願い、本時のねらいを述べる。

まず、今日の授業の願いとねらいについてお話しください。



実験に対して消極的な子供が、「理科って楽しいな」と思えるようにしたいと考えました。流水実験器の自作によって「流れる水のはたらき」の単元でもグループ学習が可能になったので、多くの子供に積極的に実験器具に働き掛けさせたいと考えました。

④ 協議（振り返り） カードに書かれた学びの姿を交流し合う。

それでは振り返っていきましょう。指示した条件整備の中で一番重視していたのはどれですか。

展
開

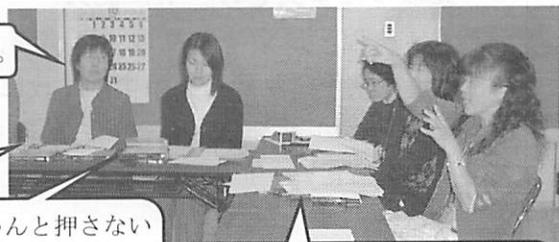


一定で多くの量を流させたかったのです。前日の実験で、ペットボトルに入った水を1本分全部流したら、土がすべて流れてしまって失敗したグループがあったので。

指示後の実験場面で見取ったカードを紹介してください。

〇〇君が2回目下流の土をこぶしで固めていました。

1回目もたたいていましたよ。たたいた場所は中流あたりですが。



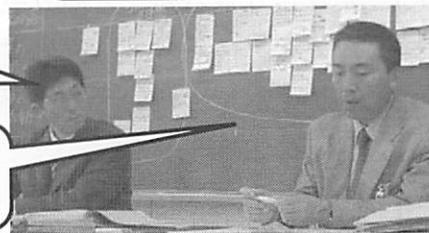
4班は「前は土がゆるくて流れてたから、ちゃんと押さないと…」と言って、みんなでぐいぐい押し固めていました。

7班も丁寧に、平らに固めていました。

・参観者の見取りを授業者へ返す。

土が前時に全部流れたので修正したというお話でしたよね。

条件整備の弱いところですね。土の押し固め方の指示が十分ではなかったので、土の弱いところはすべて流されたのですね。



⑤ 協議Ⅱ（自由討議） 授業改善の具体的なアイデアを述べる。

振り返りはここまでにします。自分ならどこを工夫するか具体的なアイデアを出してください。



水量を一定にすることが大切だと考えます。そのために、調整がうまくいかない子には、ペットボトルの角度で水量を調整するのではなく、キャップに大きさの違う穴を開けると調整しやすいと考えました。



⑥ まとめ 授業者が自分の言葉で授業改善についてまとめる。

授業を振り返っての印象を基に修正プランをお話してください。



子供たちへの願いについては、積極的に教材に働きかける児童のグループ活動ができていたと思います。条件整備については、ペットボトルで流す水の量をそろえるためにキャップを工夫したいと思います。ただ、自作教材を使って願いは実現できましたが、自作のため制御しきれない条件が出てきました。そのために出てきた誤差を埋めるためには、実験中にグループ間交流を行うなどして、他のグループの結果を確認させるとよかったと思います。

(4) フリーカード法による授業検討会を終えて

〔教科研究部での同僚性の構築〕

土の固め方の見取りを、授業者批評になることなく交流し合うことで、授業者は条件制御の大切さを再確認することができた。また、自由討議で全員が納得するアイデアを提案した参加者は、「授業者とともに教材づくりをしたので、次に自分が授業するイメージで話した。」と述べていた。共に授業づくりを行ってきた教科研究部員の間には、高い同僚性が感じられた。

〔見取る力の向上〕

検討会後の参加者へのアンケートに「一人一人が子供の様子をしっかりと見ることができていた。子供を見る目が、我々も育ってきたなと感じた。」という回答があった。

<p>9:50:33 すすのび しんぼ のん？ イカリはあ？ 11:00? うちまじ あてて?</p> <p>9月7日</p>	<p><記述内容の変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの事実を1枚に記述 ・鉛筆書きで全員で読めない →不正確な記述 ・授業者を批評する内容 	<p>26 せんが 弱く流すのでね。 10秒かたいて 13:55</p> <p>10月31日</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の学びの姿 ・条件制御を考えた見取り 	

4 おわりに

(1) 授業検討会での成果

① 授業改善の手がかりの獲得

〔授業者によるまとめ〕 次の授業に向けての具体的な改善策が多く語られるようになった。

算数科「はじめに、つぎに、だからというつなぎの言葉を使って論理的に説明させることは、計算方法の習得に効果的だと分かりました。」

国語科「なりきって書く擬人法から呼びかけて書く擬人法へのステップでとまどった子が多かったの、対象を人間に見立てるポイントを大切に指導していきたいと思います。」

さらに、検討会で話し合われた具体的な改善策が他学年でも取り入れられており、参観者も授業改善への手がかりを生かしている。

② 学び合いの高まり

[授業者から]

- 「見えなかった子供の姿が見えました。」
- 「共感的雰囲気の中で児童の姿を語るのに、とても話しやすかった。」
- 「これだから教師はやめられない。」

授業者は、共感的雰囲気の中で、自己の内面を率直に語っていた。ここから、学びの姿を交流し合う楽しさと、授業改善の手がかりを得られた充実感を感じることができた。

[参観者から]

- 「授業者でなくとも、検討会中になるほどそういうことかと気付くことが多くあった。」

授業者の率直な内面の語りから、参観者も自分のこととして授業を振り返っていた。ここから、授業者から共感的に学ぶことができ、新たな気付きを得ることができた。

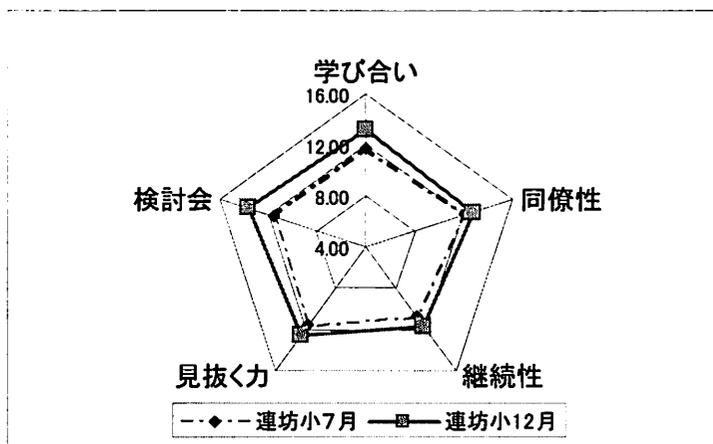
③ 学びを見取る力の向上

5月に行われた1回目の授業検討会では、授業者を批評する見取りや漠然とした印象を述べる参観者がいた。それが、回数を重ねるごとにカードの記述内容や、参観者の発言から、見取る力が高まっていることが感じられた。

【図1】教員意識調査の結果

現在、本校の教員は学びの姿の意味を考え、これに自分なりの判断まで含めて見取りを行うことができるようになってきている。

【図1】は、7月と12月の教員意識調査の結果である。伸びの大きかったのは、「検討会・学び合い・見抜く力」の3項目である。これらはそれぞれ、上記の①②③の成果を裏付けていると考える。



(2) 今後の課題

① 授業力への転換

本校の教師は、参観者として学びが見える力が大きく伸びた。次のステップとして、この見えるようになった力のすべてを、日々の授業で生かせる「授業力」へと効果的に転換していくことが求められる。教師個々が意識的に、「見える」力をどう児童とのかかわりや教材作成・指示・発問等で具体化していくかが、授業力向上のための課題となる。

② プロンプターの育成

「自分もあのようにプロンプターができるかと言われたら疑問です。」という参観者の不安の声が多かった。多くの教師が、プロンプターとしての力量を身に付けるには、どのように意図的計画的に校内研究を進めていくかが、今後の大きな課題である。

仙台市立連坊小路小学校 長期研修員 板橋 宏明

第3部

委嘱研究員の取組

各学校の工夫を通じた実践

I 参加意識を高め、学び合うペアの話し合いを活用した授業検討会

仙台市立生出小学校 伊藤 敏子

II 見取りを大切にしたワークショップ形式の授業検討会

仙台市立宮城野中学校 早坂 文宏

III 専門的な学びを求める全体での協議・助言を中心とした授業検討会

仙台市立袋原小学校 滝川真智子

IV 温かな雰囲気の中で学びを共有するフリーカード法による授業検討会

仙台市立寺岡中学校 吉田 知彦

■ おわりに

調査研究委員長 遠藤 裕子

**参加意識を高め、学び合う
ペアの話し合いを活用した授業検討会**

仙台市立生出小学校 伊藤 敏子



参加人数を問わない

ペアの安心感

まず、ペアで話すので

たっぷり意見交換



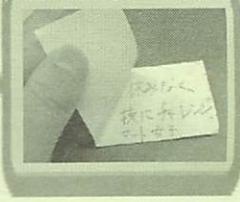
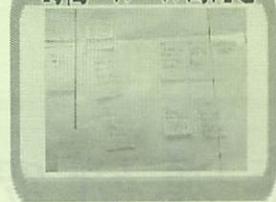
参加意識の高まり

近隣校交流・
異校種間交流
でも有効

**見取りを大切にした
ワークショップ形式の授業検討会**

宮城野中学校 早坂 文宏

時間・ルール周知と 分担した見取りにより



授業改善を目指し 他教科に通じる視点も



「調査研究発表会」(2/7実施)での発表ポスターから

**教科の専門的な学びを求める全体での
協議・助言を中心とした授業検討会**

仙台市立袋原小学校 滝川真智子

指導助言を
十分に

協議テーマを
設定して



深まり

つながり

聞き合い

- ◆ 力のある指導助言者の存在
- ◆ 専門性を高めるニーズ

温かな雰囲気学びを共有するフリーカード法

仙台市立寺岡中学校 吉田 知彦

事前の配慮

カードの工夫

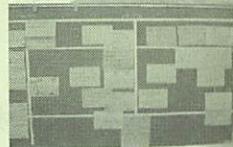
打合せ

プロンプターのコーディネート

温かな雰囲気

見取りカード

話し合い



授業者の気付き

話しやすさ

充実感

一体感

気付き合い

◇ 仙台市立生出小学校の実践 参加意識を高め、学び合う ペアの話し合いを活用した授業検討会

1 はじめに

本校では、課題である「学力向上」につながる算数科「数と計算」領域を取り上げ、校内研究を行っている。また、今回調査研究で取組んでいる「ペアの話し合いを活用した授業検討会」を職員研修と関連させ、教員の校内研究に対する参加意識を高めることを目的とした。併せて、教員の資質向上に向けた校内研究の充実を図ろうと考え、本研究主題を設定した。



<ペアの話し合い>

2 授業検討会の実際

本校ではペアの話し合いを活用した検討会を3回行った。

(1) 授業検討会Ⅰ

～授業検討会の理解～

① 授業について

この授業は、「分母の大きさの違う二つのケーキで大きいほうはどちらか」を課題とし、分数の大小についての理解を深める内容である。

② 検討会の実際

校内研究サポート事業を活用し、司会を教育センターに依頼した。検討会では、「分数の大きさについての一般化ができたのか」「もともになる大きさについて理解しているか」を中心に、ペアの授業検討会の方法を理解しながら、話し合いが進められた。

③ 成果と課題

- ペアの話し合いを活用した検討会に参加し、話がたくさんできるよさを実感していた。
- ▲児童の姿からの話し合いが弱かったため授業改善まで深めることができなかった。
児童の姿から学びを理解することの不慣れが見られた。

<指導案抜粋>

第5学年 算数科学習指導案

1 単元名 「分数のたし算ひき算を考えよう」

(1) 本時の目標

分子が同じ分数の大小比較のしかたを理解する。

(2) 評価規準

〔知識・理解〕

分子が同じ分数の大小を比べるには、分母の大きさに着目すればよいことを理解している。

(2) 授業検討会Ⅱ

～近隣校との活発な協議～

① 授業について

本時の授業は、『2.5ℓのお茶を0.7ℓ入りの水筒何個に入れられてどれだけあまるか』という問題を図や絵で解決する。その中であまりの大きさに気付き、新たな筆算のきまりを理解する。

<指導案抜粋>

第5学年 算数科学習指導案

1 単元名「小数のわり算」

(1) 本時の目標

小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。

(2) 評価規準

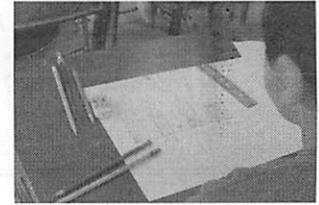
〔数学的な考え方〕

あまりの小数点の位置を被除数と関連させて考えている。

〔表現・処理〕

あまりのある場合の小数の除法計算ができる。

あまりの4は整数の4なのか0.4なのかを明確にさせるため、図や数直線等自分なりの解決方法で自力解決に挑んだ。検討会での話題も「あまりの4」の扱い方に焦点が当てられたものとなった。



<自力解決>

② 授業検討会の工夫改善～1回目の反省を受けて～

1回目の検討会の反省を受け、次の3点について工夫改善を行った。

工夫・改善点	趣旨
ア 児童の学びの姿の見取り	児童の学びの姿の具体や学びの姿を見取るための授業記録用紙の使い方について共通理解を図った。
イ 近隣校の参加要請	小規模校である本校は、教員数も少ないため、出される意見の数や広がりには限界があるので、近隣校の参加を要請した。
ウ ペアの意図的な組合せ	意図的に近隣校と本校でペアを組合せ、いつもにはない緊張感と刺激を受けることで、授業検討会の活性化を図った。

③ 授業検討会の実際

段階	主な項目と時間	形態	検討会の実際と留意事項
協議 I	3 協議 I (授業者からの提案) ①ペアでの話し合い<20分>  ポイント ペアが順番に話す くまずはあいさつから> ②全体への発表 <10分> 司会者の指名で発表。	ペア 全体	3 本時の提案に関する協議を行った。 ◇ 「情報機器活用は効果があったか。」 自力解決の方法から、これまでの手だてが有効だったか。 工夫改善の成果—活発な話し合い <AさんとBさんペアの発言> A: パワーポイントでのハイキングの場面の提示は、導入としては効果的。2.5 $\frac{1}{2}$ と0.7 $\frac{1}{2}$ の量の違いが分かってよい。 B: 今日のハイライトは0.4か4か。自力解決で4は0.4と理解できていた。
まとめ	4 成果の確認と課題について <5分> ポイント 協議の絞込みは的確に	全体	4 司会者が発表をまとめた。 司会: 情報機器は効果があったとまとめられます。自力解決について話し合いましょう。
協議 II	5 協議 II (課題と改善) (授業改善) ポイント 自分のこととして授業を考える —新たな課題— 授業改善については、ペアで話し合っても片方の意見だけ「私はこう考える」と発表されていた。自分の意見が反映されないという不満な声が生じた。	ペア 全体	5 課題として出されたことについてその改善策を話し合い発表した。全体的な授業改善についてもペアで話し合い発表した。 <授業改善についてペアから全体への発表> A: 私の考えは、説明図に文で結論付けをする部分を入れる。文末だけでも「～だからあまりの4は(4 or 0.4)なのです。」と決めて説明文を考えさせる。

④ 成果と課題

- 記録用紙を活用し、児童の学びの姿からの話し合いが可能となり深まりが見られた。
- 近隣校の参加により、いつもにはない緊張感で真剣な話し合いが展開され、授業者・参観者ともに満足度が高かった。
- ▲ペアでの協議内容が明確に示されれば、全体での話し合いもより深まる。
- ▲授業改善では、ペアで話し合ったときの自分の意見が全体の発表で反映されなかった。

授業改善まで話し合いが深まったが、授業改善について個々の意見が全体の発表では反映されない。

(3) 授業検討会Ⅲ

～自分のこととしての提案～

① 授業について

この授業は、ケーキの代金を求める方法から3口のかけ算を理解する。

② 第3回授業検討会の工夫改善

第2回授業検討会の反省を受け次の2点の工夫改善を行った。

ア ペアでの協議内容の明確化

協議内容を明らかにするために短冊を使用した。

[短冊の使用]

ペアの話し合いの内容を色別短冊に、簡潔に記入し発表。

<短冊の色と内容>

- ピンクー授業の成果
- 黄色ー授業の課題
- 黄緑ー授業改善

短冊の色で示されている内容が明確に。



<短冊でのまとめ>

改善後

- ・発表時間が短時間に
- ・要点に沿った発表に
- ・発表内容が明確に

イ 自分のこととして考える授業改善

<前回の反省>

- 個々の意見の反映
- 自分のこととして提案

以上を受けて二つの観点から改善を行った。授業改善については自分のこととして授業を考えることだけを求める。そのため、ペアでの話し合いをせずに個々が考え発表するようにした。

授業検討会

協議Ⅰ・Ⅱ【成果・課題】
ペア→全体

協議Ⅲ【授業改善】
個人→全体

本校の工夫

改善後

- ・個々の多様な意見が示された。
- ・授業・協議全般を個々が再構築しながら授業改善を考えていた。

3 ペアの話し合いを活用した検討会の有効性

ペアの話し合いを活用した検討会について参加者から出された主な意見から、その有効性を以下のように考える。

**だれもが積極的に参加し、たっぷり意見交換ができる検討会
ペアでテーマに沿った十分な話し合いができる。**

- <感想>・ペアでは必然的に話すことを求められるので、参加している気持ちになる。
・経験年数に関係なく同じ立場で話し合いに参加できる。
・提案について焦点化された話し合いが展開できる。

**人数・参加者を問わない検討会
近隣校・異校種との交流に適している。**

- <感想>・近隣校、しかも少人数同士の学校の交流は、お互いとてもよい刺激になる。
・教師同士も、かかわり合うことから学び成長する。
・初対面の教員でもペアなので、提案について気軽に意見を出し合える。

**全体に伝えるときの安心感がある検討会
ペアでの話し合い後、全体に伝えるので安心して全体の場で話ができる。**

- <感想>・自分の考えを聞いてもらえる充実感だけでなく、自分と異なる考えを共有する中で参加意識が高まり、全体での発表が抵抗なくできる。

**多様な見方が得られる授業検討会
授業に対する見方が広がり、授業改善の情報を得られる。**

- <感想>・それぞれの授業の見方が異なるので、様々な意見を聞くことができる。
・他のペアの話を後から聞くことができる。
・授業改善の方法を多く知ることができ参考になる。

参加者の役割 「自分の意見を相手に伝える」
「相手の意見を聞き、考える」
「話し合われた内容を全体に発表する」

参加意識が高まる

4 おわりに

ペアの話し合いを活用した授業検討会では、参加者が三つの役割を持つとともに協議事項すべてについて順番に話すため、充実感・満足感が共に高い。そのため、参加意識が高まる。また、経験年数を問わないだけでなく、初対面でも気軽に意見を出し合うことができる。実際、近隣校の参加を得て行った授業検討会でも、参加者のペアの話し合いを活用した検討会に対する評価は高く、近隣校・異校種間交流に適していることが確かめられた。本校のような小規模校にとって近隣校との授業検討会は、まさに授業検討会の活性化につながる。本校での3回目の授業検討会では、ペアでの話し合いをきっかけとし、最後には授業改善の手だてを個々で考えるようにした。改善策を自分のこととして考える中で、その授業や授業検討会と再度向き合うこととなる。それは、個々の授業づくりにつながるものと思われる。個々の授業力向上を目指し、授業検討会に工夫を重ね、今後も校内研究活性化に努めたい。

仙台市立生出小学校 伊藤 敏子

◇仙台市立宮城野中学校の実践

見取りを大切にしたワークショップ形式の授業検討会

1 はじめに

(1) やって意味のある授業検討会をしたい

本校では、平成 17 年度から、9 教科が 3 教科ずつの三つの合同部会に別れ、ローテーションで授業提供をし、授業検討会もその合同部会で行ってきた。

平成 17 年度までの授業検討会は、授業者の自評・協議・指導助言といった流れの従来型であった。本校の場合、発言が一部の参観者に偏り、授業者への褒め言葉と一方的批判が多かった。授業者にとってはためになることが多い場であったが、参観者全員にとっても「やって意味のある授業検討会」でなければとの思いが生じていた。

(2) 校内研究とのかかわり

本校では、研究の目標を「関心・意欲・態度」「基礎・基本」を確かなものにするということにし、3 か年で各教科 2 度ずつの授業研究を中心に研究を進めてきた。特に、基礎・基本を身に付けさせたいと感じさせる生徒が多かった。観点別評価が「C」に当たる生徒への支援をどうすべきかを研究推進委員会や教科部会で話し合い、教科あるいは学年ごとに補充的学習に取り組んだこともあった。

平成 18 年度に、生徒の学びの姿を基に授業改善について話し合う授業検討会を「校内研究推進協議会」で知った。具体的な事実を見取り、見取りの交流をし、対応のしかたを考える方法なので、問題点が明確になり取り組みやすいと感じた。基礎・基本を身に付けさせたい生徒については、個々の学びの姿をとらえやすいとも思った。

2 第 1 回授業検討会

(1) 提案授業の概要

教科名：保健体育科

題材名：器械運動（マット運動・跳び箱の選択）

<本時のねらい>

○今ある技をより美しく、ダイナミックに完成しよう。

○新しい技に挑戦しよう。

<概要>男女共修で、マット運動と跳び箱を学習する題材である。本時は、自分の能力に応じて、できる技を完成させ、次の段階に進もうとする授業である。



(2) 授業検討会の実際

この授業の検討会は、音楽・美術・保健体育の合同部会（8 名構成）で、ワークショップ形式で行った。

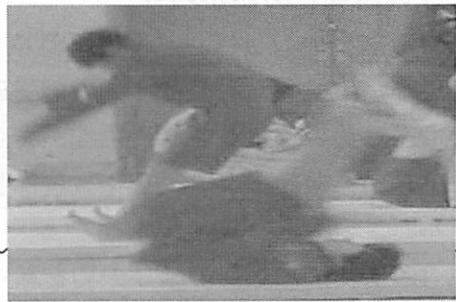
研究推進委員会の話し合いでは、見取りをできるだけ詳しく行うために、座席表を基に、生徒の発言やしぐさ、つぶやきなどを列ごとに分担して見取ることを決めた。

<学習過程を拡大したものへの付せん紙 貼付>

段階	主な学習活動	指導上の留意点等
導入	ウォーミングアップ 勝手に運動、遊び あいさつ前のw.up	跳び箱の位置が気になる。 どこからが授業？

中略

展開	<p><目当て> 今できる技の完成</p> <p>今ある力で遊んでいる</p> <p>14:23跳び箱班のYくん じっと観察し、「わかった！」</p> <p>14:33Yくん「できなくなった」と言いPCへ</p> <p>14:34Yくん に仲間がアドバイス</p> <p>14:41Yくん 「ハンドスプリングができない」と言ってマット班を観察</p>	<p>後方の女子、w.upで逆立ち。足を押しえてもらい、「できたできた！」</p> <p>手を付かずに練習1名</p> <p>他と張り合う。</p> <p>できない生徒に教える。</p> <p>試技後に壁にぶつかりそう。</p>
----	---	--



中略

<p>……マットのセッティングを変える……</p> <p>◆跳び箱 頭はね跳びができる。</p> <p>14:43Yくん 跳び箱に戻り台上前転成功、頭はね跳びも</p> <p>14:45Yくん 仲間とシミュレーション、「1回できるとうもうできる」</p> <p>14:47Yくん 「あと1回」の指示に「せっかくなのでできるようになったのに」</p>	<p>助走長くスピード出している。(マット)万歳したらできた</p> <p>マットの助走、長くなっていく</p>
--	--

① 成果

他教科担当でも発言がしやすかったし、専門的な知識や構えがないので、かえって素朴な事実まで細大もらさず見取ることもあった。

上記の「マットの助走、長くなっていく」「助走長くスピード出している。(マット)～万歳したらできた」という付せん紙は、他教科によるもので、協議で改善策の話し合いにつながった。

基礎・基本を身に付けようと苦心している個の活動を追って観察したことも効果的であった(Yくんについての見取り)。

* 参観者のコメントより *

研修会が活性化し、教員が主体的・能動的に校内研究にかかわれるようになると思われる。

参加者全員が発言できる。

話題が(豊富?)出しやすい。

担当するエリアを決めてみることで、全体を見るときよりも生徒の細かい反応を知ることができる。

分担して見るので、自分が見取れない部分も他の人のカードによって知ることができる。

他教科の先生も意見が出しやすい。

重点的に見る生徒を決めておくと、結果的に全員のことが細かく分かり、授業者にも役に立つ。

② 課題

グループ8名では、付せん紙の数が多くなり、論点が多くなり過ぎた。成果と授業改善策の話し合いをする時間がなくなってしまった。他の合同部会は14, 5名であったため、一層その傾向が強く、まとまりがつかなくなった。

* 参観者のコメントより *

まとめるのは大変。(司会者が、取り上げる意見と後回しにする意見を判断するのが難しい)

論点が多くなってしまいうという傾向がある...

また、付せん紙に授業者への批判的・指導的コメントを記入したり、付せん紙を貼付する作業中に意見を主張したりする参観者がいて、ワークショップ形式の流れにならなかった。

失敗のケース

8~15名で一斉
方法の理解不足
論点多数で協議不十分



3 第2回授業検討会

前回は、前項に示した以外にも、「自己紹介は不要」「この方法に慣れないうちに時間が過ぎてしまう」「いつから意見を言ってよいのか分からなかった」「拡大した指導過程に時系列で(カードを)はらず、内容別に分けて協議をしてもよさそう」などといった問題点等が寄せられた。それらも踏まえて、モデルを土台に本校なりの工夫・改善をした。

<事前準備における相違点・変更点>

① カード型付せん紙には、見取った時刻も記入する。

② 拡大した指導過程ではなく、白紙の模造紙を準備する。

③ 参加者を5~6人程度の小グループに分け、**小グループごとに参観対象の生徒を割り振る。**

学びの姿がどの時点のものかが分かるように。

作業・協議、全体協議、指導助言等の時間を守ることや、付せん紙への記述内容について、ルールを守ることも、職員会議で確認した。

4 おわりに

2回の授業検討会を基に、ワークショップ形式の授業検討会の有効性と課題等をまとめる。

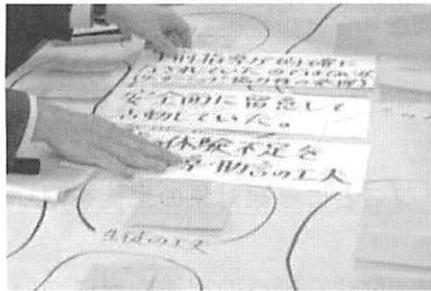
(1) 有効性

- 分担した見取りは、学びの姿を細かく見取るのに適した方法である。
- 具体的な事実を見取るので、他教科でも参観しやすく、発言しやすい。
- 活発な協議を通して、新鮮な視点での授業改善が期待できる。



(2) 課題とその改善

<p>△長いコメントや、意見(例えばの導入部の2枚の付せん)</p>	➔	<p>◇基本モデルのルールを守るよう心掛けてもらう。時間配分を明確に。</p>
<p>△8～15名では、論点が多く、成果と改善策の協議が不十分。</p>	➔	<p>◇5～6名の小グループをつくり、作業・協議を行う。また、その小グループごとに参観の対象を割り振る。</p>
<p>△島分けのとき、親しい内容の付せん紙の見極めが難しい。教科専門的なことが分かりにくい。</p>	➔	<p>◇授業者は、小グループに入らず、すべての小グループを回って求めに応じる。</p>
<p>△他教科の教師が学ぶ場となるか心配。</p>	➔	<p>◇教科専門的な論点での協議もするが、どの教科にも当てはまる論点も小グループの協議から意識する。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒を集中させたい場面での指導 ○つまづいた生徒への声がけ ○課題を終えた生徒への手だて ○褒め方、励まし方 ○話し合い活動のさせ方 ○発言のルール指導、発言の受け方



仙台市立宮城野中学校 早坂 文宏

◇仙台市立袋原小学校の実践 専門的な学びを求める 全体での協議・助言を中心とした授業検討会

1 はじめに

本校では校内研究の取組として、「授業検討会の工夫改善」と「日常の授業公開」を進めている。今年度は、教科の指導方法について専門的なアドバイスを受ける機会として、「全体での指導・助言を中心とした授業検討会」に取り組むことにした。

(参観者)
教科の専門的な視点で見ると、課題は別にあるのでは？



(参観者)
この教科について詳しい方から、具体的に指導方法をアドバイスして欲しい。

<授業検討会>

2 授業の実際

公開した授業は、2学年の国語科である。

<指導案(抜粋)>

本時の授業で児童は、「つなぎのことがばをつかって、じゅんじょよく文を書こう。」を目標に学習する。自分の体験したことから題材を選び、説明書きを始めて2時間目となる。「はじめ」「中」「おわり」という構成で、順序よく書くために「文カード」を使う。つなぎの言葉を確認しながら文を書き進め、本時では「中」の部分を仕上げしていく。授業者は、児童が互いに読み合ったり、発表を聞き合ったりしながら、表現のよさに気付き、書くことを楽しむような授業を願い手だてを工夫した。

第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 「たしかめながら読もう」
教材文 「一本の木」
- 2 単元の目標
 - 文と絵を結び付けて順序よく楽しみながら読んでいる。
 - 自分の体験を基に題材を選び、文の続き方に注意して順序よく書いている。
- 3 本時の学習(本時8/12)
 - (1)学習目標
 - ・接続語の働きに気付き、順序よく文を書くことができる。
 - (2)学習活動
 - ・「中」の部分をメモカード整理し、順序よく書く。
 - (3)本時の評価規準
 - ・つなぎの言葉を意識して順序よく文を書いている。

3 授業検討会の実際

(1) 授業検討会の工夫

今回取り組んだ「全体での協議・助言を中心とした授業検討会」のねらいは、十分な指導助言の時間を確保することで、教科の専門的な視点から授業の課題を明確にし、授業者が改善策をとらえられるようにすることである。そこで、本校では専門的な視点で協議を進めるために、「協議テーマの設定」をすることにした。また、指導助言は授業検討会の最後ではなく、協議の途中で受けることとし、「十分な指導助言の時間の確保」に努めることにした。

① 協議テーマの設定

授業者がとらえた課題に沿って協議を進めたいと考え、授業者と指導助言者と司会者で、授業後20分間で協議のテーマを設定することとした。指導助言者がテーマの設定の段階からかわることで、授業検討会の柱を教科の専門的な視点で設定できると考えた。さらに、あらかじめテーマが提示されていることで、参観者は視点が明確になり、効率よく協議を進めることができる。テーマに基づく協議が60分間であることを考慮し、テーマの数は2~3個とした。

② 十分な指導助言の時間の確保

指導助言は一つのテーマの協議が終わるごとに受けることとした。協議時間を20分間、指導助言を10分間とした。一テーマ30分間とし、1/3を指導助言の時間として確保することにした。

このように協議の流れの中に指導助言があることで、授業者と参観者が成果や課題をその場で共有していくことができると考えた。

(2) 授業検討会での具体的な発言

授業検討会では、児童の学びの姿を基に自由に発言することを確認した。授業検討会の過程は90分間であるが、協議時間は60分間でテーマが設定されていることを参観者に知らせた。

① 協議テーマの設定(20分間)

授業者	指導助言者	司会者
授業者・指導助言者・司会者は、授業のねらい、手だて(提案)、思いや願い等から、授業検討会の協議のテーマを設定する。		

(司会者)
話し合っって欲しいことは何でしょう。

(授業者)
発問についてどうだったか、皆さんから意見をいただきたいのですが……。



<テーマの設定>

(指導助言者)
今日の授業では、一般的な発問の在り方よりも、文カードとワークシートの扱い方。それに、発表のねらいが、どうかということが大切だと思います。

② 検討会の過程(90分間)

	主な項目と時間	形態	内容・留意点
導 入	1 検討会の進め方の確認 <5分>	全体	○テーマを設定して協議することを確認する。 ○児童の学びの姿を基に意見を交流することを確認する。 ○時間配分を知らせる。
	2 授業者からの提案 <10分>	全体	○授業者は授業のねらいを達成させるための手だてや思い、授業を終えて気が付いたことや考えたことを話す。



<授業者の提案>

(授業者)
今日は、どの子にも文が書けたという満足感を感じて欲しかった。そのために、文カードとワークシートを工夫して、ていねいに指導したつもりです。

<p>3 学年からの提案<5分></p>  <p><学年からの提案></p>	<p>全体</p>	<p>・共に教材研究をしてきた教師は、提案に補足する。 (共同研究学年の参観者) 主語や述語を勉強したばかりの2年生である。今回は順序よく書くためのつなぎの言葉を意識しながら、どの子にも文を書いて楽しかった、説明書ができたという実感を持たせたかった。</p>
<p>4 協議のテーマを確認 <5分></p>	<p>全体</p>	<p>○司会者は、テーマをカードに書いて提示する。</p>
<p>(司会者) 今日のテーマは、「つなぎの言葉の取り扱い方」と「文カード・ワークシートの使い方」とどのような願いで発表させたか」の三つです。どれから話し合いますか。</p>		
<p>5 協議 <一つのテーマ20分></p>	<p>全体</p>	<p>○参観者は児童の学びの姿を基に授業のねらいの達成、授業者の思いや願いの実現、指導方法について意見を述べる。</p>
 <p><協議></p>		<p>(参観者) ワークシートに文を書くときに、つなぎの言葉を初めて使わせると、そのよさを改めて発見するかも知れない。</p> <p>(参観者) 書くことの学習で発表は、どのようにさせたらよいのだろうか。</p>
<p>6 指導助言 <一つのテーマ10分></p>	<p>全体</p>	<p>(指導助言者) 「まず」「それから」「同じようにして」「最後に」はすべてを接続語ではなくてくれない。順序を示す言葉としてとらえる。</p>
 <p><指導助言></p>		<p>(指導助言者) 学習の流れから考えると、文カードが正しく並べられていたのかを確実に確認する必要がある。</p> <p>(指導助言者) 本時のねらいに即した手だとして発表させる。意欲を高めるだけでなく、ねらい達成ができたかを確認する発表が大切。</p>
<p>* 5, 6を繰り返す。</p>		
<p>7 授業者によるまとめ <5分></p>	<p>全体</p>	<p>○協議から得た改善点、これから実現したい授業等について話す。</p>

展
開

ま
と
め

(3) 授業者によるまとめ

「まず」という言葉の使い方の誤りを生かして授業を進めると、むしろ、児童の理解は確実になることや、国語の学習のねらいに沿った視点を与えて、発表を聞かせることの大切さなど、授業者は具体的に改善点を得ることができたことが分かる。

<授業者によるまとめ(抜粋)>

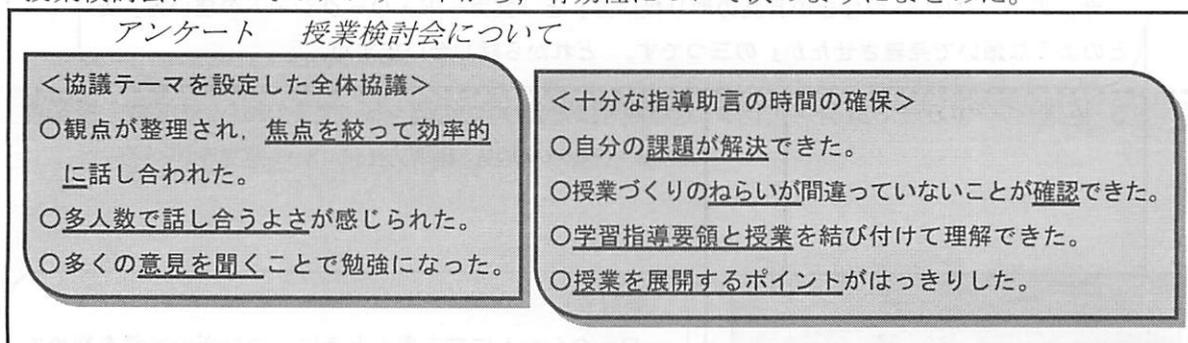
授業をしてよかったと思います。(中略)「まず」の使い方を間違えている児童がいたことに気が付きませんでした。(中略)発表させるときには、学習のねらいに沿った意図的な発表のさせ方をするのがよいと分かりました。聞く側にも視点を与え、児童が学びを深めるための手だてを具体的に示すことが必要であると分かりました。

4 おわりに

「協議テーマの設定」と「十分な指導助言の時間の確保」について、有効性と課題を整理するなかで、「授業者への批評」と「参観者の発言」について課題があることが分かった。

(1) 有効性

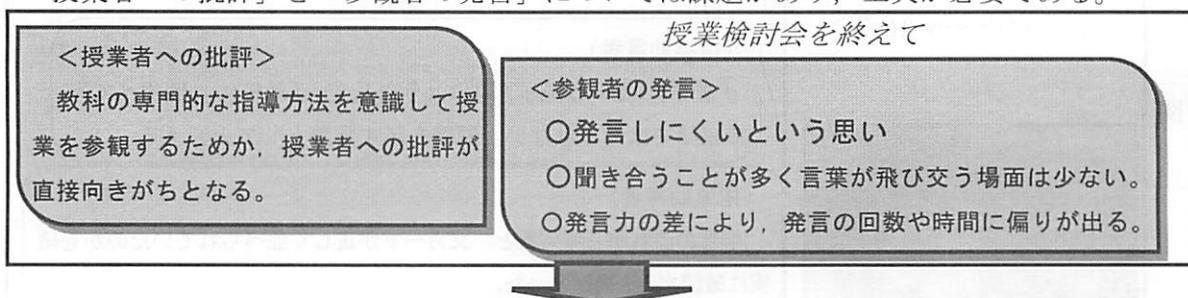
授業検討会についてのアンケートから、有効性について次のようにまとめた。



指導助言者が協議テーマの設定からかかわることで、教科の専門的な視点を柱として効率的に協議が深められた。指導助言を協議テーマごとに時間をかけて受けることで、協議したことがその場で指導助言者の言葉でまとめられ、成果と課題が具体的で分かりやすかった。指導助言者は参観者の意見をつなぎ、協議を整理し意味付ける役割も担うこととなった。

(2) 課題

「授業者への批評」と「参観者の発言」については課題があり、工夫が必要である。



授業を参観するときには、児童の学びの姿に参観者の視線を向けるツールが必要である。授業検討会では、児童の学びの姿で語る場面を意図的に作ったり、司会者が指名の仕方を工夫したり、参観者が話しやすい雰囲気づくりに努める。

(3) 授業検討会で学び合うために

この授業検討会のよさは、的確な指導助言を受け、授業者も参観者も教科の専門的な視点から学び合えることである。児童の学びの姿の見取りと参観者の発言のしやすさに課題があるが、力量のある指導助言者の存在と教科の専門的な立場から授業を検討したいというニーズがある場合には、効果的な学び合いができると考えた。

仙台市立袋原小学校 滝川真智子

◇仙台市立寺岡中学校の実践

温かな雰囲気学びを共有する

フリーカード法による授業検討会

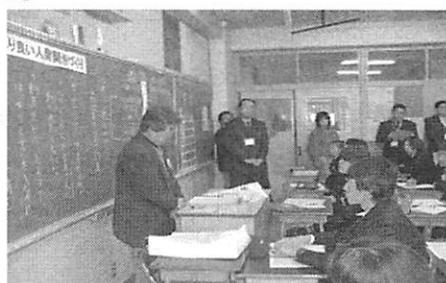
1 はじめに

本校では校内研究の活性化のために、「○研究領域を全員で取り組める道徳 ○指導案検討会の充実 ○授業検討会の充実」の三つを工夫してきた。「授業検討会の充実」では、全員が参加して積極的な意見のやりとりができる検討会を目指し、H18年度にワークショップ形式の授業検討会を取り入れた結果、検討会では生徒の学びの姿で語れるようになり、一人一人が積極的に話し合いに加わろうとする姿勢も見られるようになった。今年度はフリーカード法に取り組み、なお一層、校内研究を活性化させていこうと考えた。

2 授業の実際（第2回目の検討会）

(1) 学習指導案より

- ◇教科・領域 2年生 道徳
- ◇資料名 おばあちゃんの指定席（暁図書出版）
- ◇内容項目 感謝と思いやり 2-（2）



《学習過程》

段階	主な学習内容(発問・指示)	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	「知っているを、しているへ」の広告提示	○広告プリントを見る	○広告プリントの提示をする。 ○日常生活や身の周りで「知っているも、できないことが結構ある。」ことに目を向けさせる。
	<p>発問3：ゆう子はなぜ「小さな声」で謝ったのでしょうか。</p> <p>補助発問1：どんな気持ちから出た行動だったのかな？</p> <p>発問4：(中心発問) 今日の目標を日常生活で生かすために、必要なことは何でしょう。</p>	<p>○泣いていたから</p> <p>○男の人が近くにいたから</p> <p>○周囲が気になったから</p> <p>○優しさ・思いやり</p> <p>○周囲への配慮・気遣い</p> <p>○優しさ</p> <p>○思いやり</p> <p>○気遣い</p>	<p>○「小さな声」から男の人や周囲の人への配慮ができた行動であることに着目させる。</p> <p>○「小さな声」が優しさや思いやりから出たことを示唆する。</p> <p>○数名発表させる。</p>

(2) 授業者の願い

授業者は、テレビで流れている「知っていることをしていることへ」をキーワードに自分たちの生活を振り返り、その結果から、身の周りで起きている「知ってはいるけれどできていないこと」について確認し合い、どうすればできるようになるのか、何ができない原因となっているのかについて考えさせることをねらいとした。そのための具体的な方策として、心を揺さぶる資料の使用、ロールプレイを用いた自発性の涵養、ゲストティチャーからの講話の三つを取り入れた。

3 検討会の実際

(1) フリーカード法の授業検討会までに

プロンプター(司会者)と研究主任により、以下の点について確認した。

- ① 参観者の記入したカードを基に話し合いを進める。
- ② 話し合いの中で、授業者がどう考え、どう動いていたのかを話してもらう。
- ③ 和やかな雰囲気、授業者に気づきを促すような話し合いにする。

(2) 低調な話し合いで終わった第1回目のフリーカード法(10月22日)

① 実践に当たって参観者に伝えたこと

- 授業中に起きた事実を基に授業検討会を行うので、記録シートに授業中起きた事実について記録し、それを付せん紙に書いておく。その際事実が起こった時間と記入者が分かるようにしておく。
- 検討会では「こうあるべきだった」とか「授業の善しあし」について述べない。
- 多くの情報を授業者に伝え、授業者がその事実を理解することが大切だということ。

② 実践しての課題

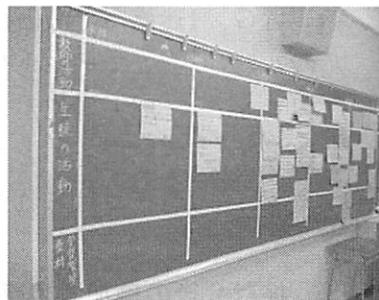
課題	その原因
<p>ア 検討会の雰囲気が固く、プロンプターと授業者のやりとりが中心となり、他の教師の話す場面が少なかった。</p>	<p>○初めての取組だったため、話し合いの見通しが立てられなかった。 ○カードから参観者に戻して話してもらう場面が少なかった。～方法の理解不足～</p>
<p>イ 他の教師が何をどのように見取ったかが、分からなかった。</p> 	<p>○プロンプターが、参観者・授業者にどこまで話してもらってよいかとまどった。 ○付せん紙の枚数が多く、さらに小さくて座席から見えなかった。 ○参観者を活用できず、参観者からの気づきをあまり引き出せなかった。</p>
<p>ウ 話し合いの視点が授業の流れに終始してしまった。</p>	<p>○授業者にも参観者にも、お互いに気づき合うのがこの検討会の趣旨であることが、徹底していなかった。</p>
<p>エ 授業者にどれだけ気づきがあったか。授業者の発言が「予定どおり」「次に扱う」「あれでよかった」というものが多かった。</p>	

(3) 活性化した第2回目のフリーカード法 (11月22日)

① 改善点

課題ア【検討会の雰囲気について】

- 温かな雰囲気のなかで進めるためのプロンプターのかかわり方の工夫。(持ち味を生かす)
- カードから授業者へ、授業者から参観者へ、参観者から授業者へなど事実の見取りの活発なやりとりの展開。



- フリーカード法の方法について、再度教員全体に理解してもらうための機会の設定。

課題イ【先生方の見取りの共有化について】

- カードの枚数制限と色分けで話し合いの視点を明確にしようとした。
- 付せん紙は最大サイズ (A5) を用い、事実はキーワードで大きく記入した。
- 黒板の付せん紙が見えるような座席配置の工夫をした。

課題ウ【話し合いの深化について】

- 検討会が始まる前に見取りの付せん紙をはってもらうようにし、プロンプターと研究主任、教頭で打合せを行い、話し合いのポイントを決めた。
- 付せん紙からだけでは分からないことを、積極的に参観者に話してもらうようにした。
- 必要に応じて管理職や指導主事からも発言してもらうようにした。

課題エ【授業者の気付きについて】

- 打合せておいた話し合いのポイントを中心に検討会をコーディネートした。教頭と研究主任は、プロンプターの投げかけに対して気付きを促す発言をした。
- もう一度フリーカード法の趣旨や方法について、授業者にも十分理解してもらった。
- 検討会の最後に今日の授業検討会を通して気付いたことや今後こうしてみたいと思ったことなどについて授業者に話してもらった。

② 授業検討会の話し合いより (抜粋)

- プロンプター : E先生このカードの「あ～」は二度目の質問の後ですか？
- 参観者E : そうそう。
- プロンプター : この部分で授業者は他の生徒に思いを言ってもらっていましたが、十分に意図した考えを引っ張り出せなかった。そこで「もう少し周りの状況にも目を向けてごらん。」と切り返しました。
- 参観者E : そこでだれだっけ？
- 参観者W : 太郎かなあ？
- 参観者S : 次郎だよ次郎。
- 授業者 : そう次郎。
- 参観者E : その「周りに」と言ったときにその意味が分からなかった。
- 参観者F : その時花子さんが「あ～」と言ったんですよ。
- 参観者E : その子にとって思い付いていない視点だったんだと思う。
- 授業者 : (何度も うなづく)



- 参観者G : 迷惑だからと思っていたのに花子さんが気付いた「あ〜」。
 プロンプター : ここで他にも生徒の表情で気付きのあった先生方はいませんか？
 参観者Y : 三郎と四郎がニコニコしてた。
 参観者T : 三郎はそのとき発表するつもりだったみたい。
 授業者 : 黒板にはられたカードをじっくり見ながらうなづく。

(以下略)

③ 検討会後の参加者の感想より

- * 発言しやすい雰囲気だった。プロンプターも話の振り方がスムーズだった。「どの参観者にどの発問で発言してもらうか。」という的確なコーディネートがなされた。
- * 形式の理解が進んできたので話し合いが活性化した。生徒の姿や教師の姿の見取りが的確だった。カードの記入についても記入に慣れてきた。
- * 授業中の事実からカードへ、カードから参観者へ、カードから授業者へ様々な投げかけがなされた。
- * カードの色分けは効果的だった。話し合いの山場をどこにおくか一目瞭然で分かった。
- * 参観者それぞれの考え方が引き出せたので、参加した全員が充実感を持てた。
- * 様々な意見が目で見えて、共感したり発見できて充実していたと思う。

④ 成果と課題

- <成果> 具体的な改善策が功を奏し、検討会は劇的に変化した。温かな雰囲気の中でやりとりされる見取りの交流、その事実の意味の推測が飛び交った。参加者全員が充実感を持って検討会を終えることができ、目指していた検討会に迫ることができた。
- <課題> この検討会のよさを生かすには15人程度が限度である。それ以上ではこのような効果は望めないだろう。また、今後特定の教師だけでなく、多くの教師がプロンプターの役割を経験すれば、各自が授業者や参観者になった時の話し合いの活性化につながるであろう。

4 おわりに

フリーカード法の検討会は、授業者の学びの意欲に応えられるのではないだろうか。授業者をみんなで支えるという温かな雰囲気の下で授業者に「こんな事もあったよ。」「こんなつぶやきがあったよ。」「この生徒はこんな反応を示していたよ。」「これにはどんな意図があったの。」「どうしてそう進めたの。」「どうしてそう感じたの。」など、数多くの情報の提供とねらいに迫るための振り返りを行うことによって、次の授業への手がかりを提供していく。プロンプターによるコーディネートによって、授業者も参観者も積極的な参加が促され、充実した検討会となる。さらに、授業づくりへの参加や同じ題材でのプレ授業などが可能であれば、より深い話し合いが期待されるだろう。

今年度の取組では、授業改善の自由討議にまで踏み込めなかったという反省点がある。より焦点化された話し合いを行い、後半にじっくり自由討議に取り組めるような話し合いを目指して来年度以降に取り組んでいきたいと考える。

仙台市立寺岡中学校 吉田 知彦

◇おわりに

授業を開き，自分を開くことから見えてくるもの

学習内容の定着はもちろんのこと、「子どもたちのこんな姿（反応）を見たい。」、「子どもたちとこんな時間を共有したい。」等、私たちは様々な思いを抱きながら日々授業実践を続けている。それはとりもなおさず、「子どもにとってよりよい授業をつくりたい。」という願いをもっているからである。そして、ねらいに迫るために「子どもの学びをどうつくるか」という視点に立ち、手だてを考え、具体化している。さらに、ねらいは達成できたか、その手だてや方法などが妥当であったかを「振り返り」、次の授業へと向かう。本調査研究委員会ではこれまで三年間の研究を踏まえ、実践的指導力の向上を目指し、研究協力校等においてこの「授業の振り返り」を「みんなで」、「継続的に」、「具体的な事実（子どもの学びの姿）で」実施していただき、その実際について検証を重ねてきた。

今回提案した「授業検討会基本モデル」は、まず「授業を開く」ことから始まる。考え、迷い、試行錯誤し、そして決断した授業の場に、他者（参観者）を招き入れ、そこで繰り広げられる子どもたちとの間に起こる具体的事実をつぶさに見てもらい、共に振り返る。それは「自分を開く」ことに他ならない。一方、参観者にも「自分を開く」ことが求められる。自分の手法や考えにとらわれることなく、目の前で展開される事実を誠実に見取り、受け止め、その意味を考える。さらに授業検討会において、授業者と参観者がそこで交わされる子どもの学びの姿や考えに謙虚に耳を傾け、自分の実践を振り返り、授業改善へとつなげていく。授業を開き、自分を開くことが明日への確かな力となっていく。

研究協力校等で行われた授業検討会（授業研究会）のいくつかに参加させていただいた。そこには、子どもの学びの姿や、授業づくりへの思い等を表情豊かに熱く語り合う教師たちの姿があった。またそれは、授業を開き、自分を開いた教師が個々として力を得ただけではなく、子どもたちの力となり、学校としての集団の力になっていることを実感する場でもあった。もちろんそこには、それぞれの学校が授業検討会の回数を重ね、失敗から学びながらその検討会に学校独自の工夫を加え、また改善するという積み重ねがあった。「みんなで」、「継続的に」、「具体的な事実で」授業検討会を行うことの大切さと、それがもたらす力の大きさを学ばせていただいた。

それぞれの学校における『「授業力」の向上』を目指した校内研究がより活性化することを願い「授業検討会基本モデル」を提案した。私たちはこれに基づいて行われる授業検討会を通して確かな「見（観、視）る目」、「見（観、視）る力」を培い、自身の授業改善に向けた取組を行っていききたいものである。大切なことは「みんなで」、「継続的に」そして「具体的な事実で」行うことである。その積み重ねが、私たちのそして目の前にいる子どもたちの力となり、やがて学校の大きな力になっていくものと確信している。

仙台市立将監東中学校 遠藤 裕子

【参考文献】・浅田匡著 教師として成長すること 日本教育新聞社 2004年

<引用・参考文献>

- ◇「新しい時代の義務教育を創造する」 中教審答申 2005.10
- ◇「今後の教員養成・免許制度の在り方について」 中教審答申 2006.7
- ◇『教育はいま第12号』 仙台市教育センター 2005.3
- ◇『教育はいま第13号』 仙台市教育センター 2006.3
- ◇『教育はいま第14号』 仙台市教育センター 2007.3
- ◇『教育実践臨床研究授業者の振り返りを支援する』 藤沢市教育文化センター 2006.3
- ◇『授業研究入門』 稲垣忠彦・佐藤学著 岩波書店 1996.4
- ◇『子どもの姿に学ぶ』 鹿毛雅治著 教育出版 2007.1
- ◇『教師として成長すること』 浅田匡著 日本教育新聞社 2004
- ◇講話「授業とは、授業研究会とは」 講師：相澤秀夫 仙台市立田子小記録 2006.7

<調査研究委員会>

◆委嘱研究員

仙台市立将監東中学校 教頭 遠藤 裕子
(研究委員長)

仙台市立生出小学校 教諭 伊藤 敏子

仙台市立袋原小学校 教諭 滝川真智子

仙台市立宮城野中学校 教諭 早坂 文宏

仙台市立寺岡中学校 教諭 吉田 知彦

◆長期研修員

仙台市立連坊小路小学校教諭 板橋 宏明

仙台市立三条中学校 教諭 鈴木 裕太

◆仙台市教育センター

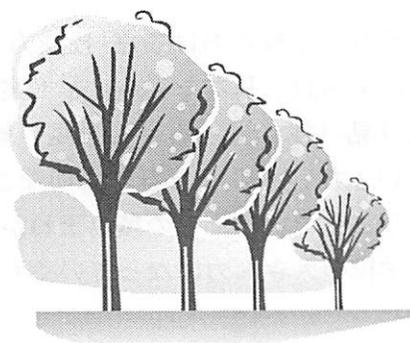
教科研修班主任指導主事 古澤 康夫
指導主事 佐々木成行

指導主事 福田喜美恵

指導主事 佐藤 郷美

指導主事 土田 茂

学習指導支援班指導主事 若狭 友子



教育研究紀要

教育は いま

第 1 5 号

発行日 平成 2 0 年 3 月 3 1 日

発行者 仙台市教育センター

所長 吉田 利弘

所在地 〒 9 8 1 - 0 8 2 5

仙台市宮城野区鶴ヶ谷北一丁目 19 番 1 号

Tel 0 2 2 - 2 5 1 - 7 4 4 1 (代)

FAX 0 2 2 - 2 5 1 - 7 4 8 6

Web ページ <http://www.sendai-c.ed.jp>

E メール info-web@sendai-c.ed.jp

Sendai City
Education
Center

